明治二十七年八月二十五日第三種郵便物認可

September 20th 1908.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 197.

大日本蠶絲會報

第百九拾七號目要

▲讀者文藝▼

●製絲用水としての一時硬水　農學士　中村雅次郎
●製絲資金に就て　奥村鹿太郎
●雌雄同體の家蠶　愛媛縣立農學校教諭　池田榮太郎
●鳥取島根兩縣下の蠶絲業に就て　生絲檢査所技手　德田實也
●聖德太子の蠶教註釋　石田孫太郎
●蠶絲業と萬國大博覽會　子爵　金子堅太郎
●萬國公認生絲練減率を定むべし　清水鱗哉
●獨逸土產　農學士　針塚長太郎
●蠶種の話　蠶業講習所技師　土屋泰
●關東州の柞蠶業　小田宗孝

▲高田式の鼻瓶 高田重右衛門君▼

TOKYO.
The Association;
No. 18 Nishikicho Sanchome, Kanda, Japan.

特許

中原式生繭乾燥器　伊國
中原式煮繭器　佛國　特許出願

○本乾燥器は生繭乾燥器中の大王と稱せらる本器は大小數種に分つ即ち小形は一回壹石五斗入より三石入六石入大は拾貳石入、四拾八石入、貳百石入等にして蒸汽と火熱の兩式ありて棚枠と旋風器と相待て回轉す

○木煮繭器は煮繭と繰絲を分業にして生產費を減少し繰絲時間を短縮し絲量を多く出ださしめ且つ燃料を減ずる上に於て世界唯一のものとす

○本器は繭の煮加減均一に宜しき爲繰絲中落繭せざれば絲量多く繰絲神速なる事を保證す

○本器御試驗の爲八拾人繰以上の製絲家に於て据付方御望みの方へ本器壹臺と繭煮方熟練の男工壹名相添三週間御貸與可申上候實地御試用の結果良好にして利益あるものと御認定の節は更に御相談可仕候若し不結果にて御戻し有之候共決して異議無し

○說明書御請求の節は乾燥器又は煮繭器と書分け御通知相成度直に呈送す

東京市本所區御石御門町三ッ目橋通

特許中原式生繭乾燥器
特許中原式煮繭器　製作販賣所

電話浅花二貳二六番　電報ナカ　振替貯金口座一六五〇四

臨時總會開設廣告

天高く氣清く秋光掬すべきの秋本會は信濃支會の懇請に依り長野縣主催一府十縣聯合共進會の開設を機とし十月七日總裁殿下の台臨を仰ぎ臨時總會を長野市に開き斯業の進運に資せんとす

由來長野縣は蠶絲類の生產額に於て他に秀絕し本邦第一と稱せられ官民共に斯業に熱心經營を忘らず今回の共進會に於て創て蠶業館の獨立せるが如き其一端を觀るを得べし更に又信濃支會の設計になる蠶絲館は趣味と實益とを兼ぬる模型標本等を陳列し會場中眺望の最も絕佳なる位置に建設せられ會員諸氏の來會を待てり依ては會員諸氏此好機に際して陸續來會して富力增殖の計を樹てられんことを

明治四十一年九月二十日　大日本蠶絲會

に成る特設蠶絲館
Palais sericicole spécial organisé par la sa

第百九十七號　大日本蠶絲會報

目次

論叢……一—八
製絲用水としての一時硬水・農學士　中村雅次郎
製絲資金に就て　奥村鹿太郎
峠並同體の家蠶　受講縣立農學校教諭　池田桑太郎

拾芳……八—一九
鳥取島根兩縣下の蠶絲業に就て　生絲檢査所技手　德田實也
聡明太子の蠶敎荘釋　石田孫太郎

演壇……二〇—二五
蠶絲業と日本火傳覺會　子爵　金子堅太郎
萬國公認生絲縫減率を定むべし　清水鱗藏

叩門……二五—二七
獨逸土產　農學士　針塚長太郎

講筵……二八—三〇
蠶種の話　蠶種製造所技師　土屋一春

心影……三一—三二
高田式の蠶紙　高田直吉工門

遠響……三二—三四
關東州の作蠶業　小田宗孝

問答……三四—三六
桑の害蟲白僵に就き質問竝答●肥料に就き質問竝答●蠶室屋根窓に就き質問竝答●二化性蠶種の貯藏箱に就き質問竝答●上蔟室の明暗に就き質問竝答

資料……三七—三九
○千九百六年度世界重要產絲國產絲額統計

說林……三九—四〇
板製蠶種用トタン小板の勾配に就きて　中村淳

絲況……四〇—四六
横濱市場○里昂市場○紐育市場○上海市場

時報……四七—六四
●會務報事●評議員會●議決委員規定●事務委員規定●品評會規則改正●會報發行規則●申吹書●文書職員の選定●委員委員の選定●特別會員の推薦●蠶染雜報●臨時總會●四十年全國製絲總額●廣東蠶業大會●供用蠶業保護會●第二回蠶業講習所試驗問題●蠶種子の蠶外の二大計畫●生絲實檢所月報●讀者文藝●蠶糸消息●新刊紹介●寄稿事項●入會案報

信濃支會の經營に成る特設蠶絲館
Palais sériciole spécial organisé par la succursale de notre association de shinano.

長野縣主催一府十縣聯合共進會
Concours régional d'un fu et de dix préfectures organisé par la préfecture de Nagano.

大日本蠶絲會報　第百九拾七號

論叢

製絲用水としての一時硬水

學藝委員　農學士　中村雅次郎

緒論

天然水の分類方法には色々あるが、水質上よりして極て概略的に且つ通俗的に之を分けて見れば、石鹼の効力が少き水と及び之が多き水との二種類に分けることが出來る、前者は普人が硬水と稱するものであつて、即ち礦物質特に石灰や苦土の鹽類を多く含有する水であり、後者は即ち軟水であつて石灰質のものや苦土質のものが少き水であることは、今更ら事新らしく申す迄もないことである、又等しく、硬水の中でも之を沸騰するか、若くは大氣中に曝露すれば、石鹼の効力を著しく回復する水と否らざるものとの二樣ある。前者は即ち一時硬水であつて、炭酸石灰や炭酸苦土を多く溶解する水である。後者は永久硬水であつて、硫酸石灰や硫酸苦土等の鹽類を多く含有する水である。此の永久硬水に屬する硫酸石灰や硫酸苦土や鹽化苦土等が製絲上に及ぼす作用につきては、從來多くの書籍中に掲載されてあるから、余は一時硬水の部類に屬する炭酸石灰や、炭酸苦土が、製絲上如何なる作用を及ぼすものであるかを、余が東京蠶業講習所に於て試驗したる成績よりして、論ずることに致したる次第である。

本論

第一　炭酸石灰及炭酸苦土の溶解率

甲　炭酸石灰

炭酸石灰は、極て純粹の水には溶解し難いものであるが、炭酸瓦斯を溶解せる水には、比較的溶解しやすくなるのである即ち純粹の一〇〇〇瓦中には僅かに炭酸石灰の〇、三五瓦しか溶解しないが、炭酸瓦斯を飽和せる水には、攝氏零度のとき〇、七〇〇瓦を溶解し、同一〇度のときには〇、八八〇瓦

丈溶解するのであつて、即溶解量が、二倍乃至二十五倍にも増加するのである。斯の如く炭酸石灰の溶解率は炭酸瓦斯の溶解量の如何により主として左右さるのであるが、天然水には、必ず此炭酸瓦斯を含有するが故に炭酸石灰より成れる岩石(例へば石灰岩や、結晶岩等)のある地層を通過した水には、必ず炭酸石灰を多く含有するが故に、從て一時硬水となるのである。

一　氣壓のとき　七六一分
二　同　同　七四四分
三　同　同　一三四分
四　同　同　一〇七分
五　同　同　一〇〇分
六　同　同　七六一分

「ビール」氏の成績

氣壓	溫度(攝氏)	炭酸瓦斯含有量	水一〇〇〇瓦中に炭酸瓦斯含有量
一一〇	一九五	二五一八	一〇〇〇
一一〇	一九七	三三七	一〇〇〇
一一〇	一九二	四三七	一〇〇〇
一一〇	一九二	四八六	一〇〇〇
一一〇	一九二	五三五	一〇〇〇
一一〇	一九二	五六一	一〇〇〇
一一〇	一九二	五八

賣込問屋として製絲業を兼営するものゝ営業なる者も

イ、三千五百萬圓　銀行其他より融通高

ロ、五百萬圓　問屋又は地方銀行より日本銀行宛に再融通をなしたる金額に其中に含入せず

ハ、五百萬圓　製絲家自身の蓄出せる繭の價格見積高

ニ、五百萬圓　養蠶家より現品に代金を受入れたる價格見積高

以上の打算にして大過なからんには、乃ち本年春繭仕入に際様及折返の共同製絲の如きは自家の蓄繭を使用せざるもの、大部分を占む

付現金を要したる高は、三千五百萬圓乃至三千八百萬圓なりとすべし。（未完）

雌雄同體の家蠶

特別會員
愛媛縣立農學校教諭　池田榮太郎

雌雄の別は第一生殖器の差異にあること何人も知悉せるところなり、然れども生殖器のほか性の別に於て確かに異なるところあり、例へば人類にて之を云ふときは女子は温柔にして體質纖弱に男子は勇猛にして強豪なるを普通とす又骨格上の差異あり、男女に依て多少の固有症あり、發育に遲速あり、男女に差異ある音聲に相異ある等人の知るところならん、以上は特り人類に止らず一般動物に通性なるものあり、例へば多くの昆蟲類は雌は美麗なる色彩を有し、音聲は雄に於て其美を致す、又鳥類の如きは雄の羽毛美麗にして、美音又雄にあるを常とす蠶の如きは體格は雄の方大にして、發育は雄の方遠かなり兩者の强弱に至りては未だ精細の實檢なきを以て判定し難し。

以上は一般に於ける差點の大要なるも少くも生殖器に於て雄は睾丸を有せざるべからず、然るに動物の種類により或は雄雌兩様の生殖器を共有するものあり、蝸牛、蚯蚓の如きは是なり、然れども此等は例外に屬し多くは雄雌單性を有するもの多しとす。

然るに單性なる動物にして往々雄雌兩様の生殖器を有するものの發現することあり、人類にも稀に之を見ることあり、半陰陽即ち「フタナリ」なるもの是なり、然れども人類に於ける其の半陰陽なるものは極めて稀にして、多くは女子陰核の長さ陰唇なるものを除き蕊と陰囊に其差たるの長さに過ぐるものを除き蕊と陰囊に其差たるの多し。

蠶體に往々半陰陽なるものを現出するものなること、予の曾て之を論じたることあり、外山博士亦農科大學學術報告に記載せられたるところなり。

予は雌雄同體の蠶に就き、少しく調査し得たるを以て之を報告し、同體の蠶に就き、少しく調査し得たるを以て之を報かん。

「クマコ」の體躯小にして、又昔の體躯大なるを以て脚等一方の正中線を境界とし、左側は頭部口器・顎・間板・胸脚・腹脚・刺の半側及尾節三角板の中心より左側は全く黑色にして、右側は正しく又昔(?)の形態なるのみならず、長く一カ所短く體は常に左側に偏屈して頗る奇なる有様を呈し歩行の如き從つて屈曲しつゝ動作せり。

右の蠶見は蜻蛾の調査を遂げずして蠶見の儘今に標本として保存せり。

本年春蠶期に於て又更に類似の蠶見を又昔種中より發見せり、時に給も五齡に成り食期なりしを以て、形態他の蠶見と明かに區別せられたり、即ち(二)圖に示す如く背脈管の正中線を境界とし、左側は少くて蠶躯小にして右側は確かに普通の昔種なり、故に第五、八の環節に縊(くびれ)の微かに(ハ)圖に左側に形現紋を存するのほか他に少しの斑點を有せず純然たる蟻蠶なり、右側は之に反し著明なる眼狀斑紋第三環節の有する小斑紋、第五環節及八環節に有する著明の(ハ)字形斑紋其他各環節の背面に有する小點狀斑紋を有せざるを以て、左右全く別種を接合せるの觀あり、(イ)は頭胸部の斑紋を現せるものにして一見片眼の蠶見の如し、而して該蠶見は左側の蟻蠶は男子性にして右側の又昔は女性なること、(ハ)圖に示すところの第十一、十二環節腹面に於ける石渡氏雌雄判別點に依りて直ちに之を知り得たり。

子は之より進んで蛹體及び成蟲に至るまでの經過形態と成蟲に變化せる後の生殖器の解剖を行はんと欲し、丁重なる取扱の下に遂に左の實驗を遂げたり。

其繭及蛹　繭は異狀なく中央縊れたる又昔に近き結繭を了せり此繭を切り開き内部の成熟せる蛹を檢するに、(ニ)圖に示す如き左側稍小體にして色淡く右體稍大にして色濃き形態を有せり。

今此蛹體につき該部生殖器形成の初期を檢するに、(四)圖に示すが如き雌雄何とも判じ難き構造を爲せり、元來蛹は其腹部末端に依りて雌雄を區別し得べきものなり、即ち雌は腹部の八節の腹面に縦線を生じ、生殖器の一部の陷入を爲し雄は第九節の始めに除蕊形成の初期を黑點狀に認むるものなり、然るに(四)圖に依りて見るに雌の縦線となりて陷入すべきも

のは其雨器の陷入部のみ現はれ、「四圖イ・ロ」陰茎形成の部分は（ハ）に依りて之を認ひ（ニは肛門）。

其●蛾●羽化したる成蟲は全く雌雄同體の本性と特徴を現はせり、即ち（五圖に示す如く蛾の左側は體軀小にして、翅及び翅全く雄の形態、環紋を頭はし右側は體軀稍大にして、翅肢の形態、環紋を全く又背の雄なり。

其●巣●動こそ頗る奇にして雌蛾を近つくれば、忽ち發情して淫々として翅を振動し尾端を曲げて交尾を需めんとす、之に反し雄蛾を例に置き彼の翅を振動せしむれば、右側なる誘引腺を膨大して殆ら交尾を受けんとするもの、如し、是に至りては全く雌雄兩性の本能を具備せるものたること知り得たり。

其●生●殖●外●器●然らば此篇蛾の生殖外器は果して雌雄幾何の程度まで發達しありや、之を外面より見るときは（六八）圖に示す如く左側には雄生殖外器に固有なる外部の「キチン」板及び一對の「キチン」鈎其他小馬蹄形「キチン」板をも見ることを得、右側には雄の生殖外器に固有なる外輪「キチン」板及び誘引腺（即ち（六八）圖は胸腹の鱗毛を剃除し）及び腫起物を有するを見る、殖外器の側面を示せるもの

なり、圖中（ア）は雄の馬蹄形「キチン」板（イ）は「キチン」鈎（ウ）は雄の麗起物（エ）は誘引腺なりとす、元來成蟲の腹部は九個環節なかるべ〻からざるものの雌は複雑なる生殖器を作るため殆んど未端の一環節を使用するを以て、八個環節の如くなるものなり、故に此篇蛾の左側は九個環節を有するも、右側は八個環節と、第九環節のもの其一少部分を基部に殘せるを見るのみなり。

生殖外器擴大、今之を擴大して正面より見るときは、（七）圖の如き構造を明かに見ることを得、即ち（ア）は雄生殖外器の下側に有する「キチン」板にして殆んど普通の形狀を有し只（イ）は陰莖にして發達よく稍大にして用を爲す如く見るもの、如し、（ウ）は陰莖基部を圍める變曲「キチン」板（エ）は「キチン」鈎にして稍彎めに存在すれども一對を具し加かも強固にして普通より屈曲端長し（オ）は雄の肛門を圍める馬蹄形「キチン」板にして（カ）は肛門を蓋へる隆起「キチン」板なり（キ）は九環節の縁邊にして（ク）は其內部に膜狀物を有せり、右側（い）は雄生殖外器の下端に有する「キチン」板の變形し

右側の一端延長せるのみ（イ）は陰莖にして稍大にして用を爲す如く見るもの、如し、（ウ）は陰莖基部を圍める變曲「キチン」板（エ）は「キチン」鈎にして稍彎めに存在すれども一對を具し加かも強固にして普通より屈曲端長し（オ）は雄の肛門を圍める馬蹄形「キチン」板にして（カ）は肛門を蓋へる隆起「キチン」板なり（キ）は九環節の縁邊にして（ク）は其內部に膜狀物を有せり、右側（い）は雄生殖外器の下端に有する「キチン」板の變形し

て不完全となりたるものにして（ろ）は左右上側に有する「キチン」板の右側のものなり、（は）は左右に有する誘引腺の右側のものにして、（に）は產卵門と交尾孔を有する腫起物なり。

是に由て見れば左側雄の生殖外器は殆ど完全にして、只馬蹄形「キチン」の上部の「キチン」物は半分なること、（ク）なる餘分の膜狀物を有するの一事なり、然るに右側雄の生殖外器は（に）なる腫起物が雄の馬蹄形「キチン」の內部に雄の隆起「キチン」の右側部の代りに、此處に構成せられたるものゝ、外は、雌の手對のみにして加へるものに比すれば不完全なり、而して尚ほ（ハ）（と）なる一對の小なる「キチン」鈎及び（ち）（り）なる二個の小肉狀突起は何物の變化せるものなるや生田不明なり、去れば此蛾の生殖外器は雌雄兩器を具ふるも雄は稍完全に近くして、雌は發達不充分なりと云ふを得べし。

●其●殖●器●生●殖●器●は最も子の知られんと欲せしところなりし、（八）圖に依りて見るに殆んど雄蛾の生殖內器にして只其一側の睾丸に代るに不完全なる卵巢を具へたるものなり、元來雄生殖內器の附着點は十二環節にして、雌生殖內器導管の附着點は十環節の終りに於てせるものなり、而して子の卵殼に依れば雄の附着點囊狀部は貯精囊と變じ、下部細管に延長して射精管となり、導管は側より輪卵管となりたるは蛹の腹部八、環節中に交尾囊及び產卵門と遊び、此管內部に沒し兩端のみ附着せる一端の陷入孔は產卵門となり他端の陷入孔は交尾孔となり、雌の卵管と交尾囊と管とは內部に於て內に孔相通じ石渡氏點の上部一對は貯精囊となり下部の一對は粘液腺となること、化したるも先年生殖器の變態として發表したるところなり、去れば卵巢導管の一側端が貯精囊に直ちに、卵巢導管に附着して合體せるは頗る奇とする現象なるも、既に、卵巢導管の一端か遊離すべからざる性質を有するを以て、貯精囊（ウ）は輪精管（エ）巢丸（オ）結液腺なり、而して（ウ）は普通の場合より

の一端か遊離すべからざる性質を有するを以て、貯精囊（ウ）は輪精管（エ）巢丸（オ）結液腺なり、而して（ウ）は普通の場合より精管となるべき部分を求めて附着せるものなるべし、故に其附着部甚だ不規則に屈曲せり、蠶兒時代に存せし列卵點は不規則なる變態のため消失して跡を止めず、只（四）圖に示せるの（イ）（ロ）の陷入部は（ハ）となり（ろ）となりて其痕跡を止めたり、（八）圖中（か）は直腸（ア）は射精管（イ）貯精囊（ウ）は輪精管（エ）巢丸（オ）結液腺なり、而して（ウ）は普通の場合より

鳥取島根兩縣下の蠶絲業に就て（承前）

農商務省蠶絲業試驗所技手　德田實也

以上兩縣下の特質を細説したりと雖も是より更に進んで兩縣下を通じ目擊せる現況及び「製絲上の車見を除過せん一蠶業の大勢」鳥取縣蠶業進の沿革は具さに知るを得ざれども島根縣にありては當局の奬勵が實に發達の動機たりしなり、彼の大浦彙武男此地に知事たりし時、熱心に奬勵せられ其餘澤を受けて以て今日の發達を來せるものと云ふも、徒に未だ自動的にあらざるを信ず、今日縣下の趨勢を見るに、動もすれば當局の「勵」偽奬勵に俟つて初めて覺醒するの傾向なり、地方廳及各部に於ける奬勵は頗る多とすべきものあり、以て現今の隆盛を見たるものと察するは敢て過論にあらざるなり、島根縣の桑園は明治二十年は僅に二百九十町歩なりしに、大浦氏赴任後即ち三十年の統計を見れば三千四十三町歩に達せり、十年間に於て十倍以上に達せり、現今は三千九百七十九町歩、即ち最近十ヶ年間に三割弱の増加とす、又蠶繭額を見るに、明治二十年に至り一萬五千五百〇九石に達す、十年間に九倍の増加とす、而して四十年に至り、三萬三千二百三十六石、即ち五割以上の増加とす、又生絲を見るに、明治二十年一千四百六十一貫のもの三十年は一萬一千八百七十四貫とす是亦八倍餘の増加とす、而して三十九年には二萬八千三百五十貫にして四割以上の増加に當れり。

如斯前ヶ年間の進歩は殆んど隔世の感あり、是特種の理由なくして何ぞ如斯なるを得んや、然り而して爾來此精神を繼續し蠶業に盡瘁せる効果は空しからず、愛々として進歩し來れり、然れども余は現狀を以て樂觀すべきものと信ずる能はず、大に縣民の省慮を要すべき事あるを感ずるなり。

二、當局者と當業者との關係

當業者の自動的奮進する所なくんば、遂に効果を收むる能はず、今縣下當業者の態度を見るに必ずしも自動的奮進の形迹を認むる能はず、殊に從來當局者に於て奬勵せるものは栽桑養蠶にして、製絲業に於ける施設は養蠶の深厚なるに比し遜れる所あり、然れども普通製絲業を起すべきものは何れの地も発憂者にして敢て奬勵保護を俟たざるも縣下の現狀に對しては必しも製絲業を放任して自動的進歩を俟つは時機に適せるものと云ふべからず、熟考を要すべきものなり。

三、「物價」

從來の製絲業家が其經營上最も利便に浴せしは、實に物價低廉の點にあり、然れども今や「島根縣の要部」は鐵道貫通せり、是より西「島根縣」に入り今市、桂葉に達するに至らば、多少物價の騰貴を誘起すべし、殊に山陽線に達せば物價は著しく騰貴すべし是れ物價の將來に對しては豫め製絲業家の覺悟を要すべき事なり。

四、金「融」

製絲資金を横濱問屋に仰ぐものと、地方銀行より仰ぐものとあり一樣ならざれども鳥取市の一部に於ては、地方銀行より乾繭を擔保として借入れ、製絲の上之に引替へ、繭は順次製絲するものあり、然れども倉用借を爲す所なくんば、大體に於て金融逼迫に至らざるも島根縣の或力面には、繭伸買商等が思惑を以

治二十年は僅に二百九十町歩なりしに、大浦氏赴任後即ち三十年の統計を見れば三千四十三町歩に達せり、十年間に於て十倍以上に達せり、現今は三千九百七十九町歩、即ち最近十ヶ年間に三割弱の増加とす、又蠶繭額を見るに、明治二十年に至り一萬五千五百〇九石に達す、十年間に九倍の増加とす、而して四十年に至り、三萬三千二百三十六石、即ち五割以上の増加とす、又生絲を見るに、明治二十年一千四百六十一貫のもの三十年は一萬一千八百七十四貫とす是亦八倍餘の増加とす、而して三十九年には二萬八千三百五十貫にして四割以上の増加に當れり。

如斯前ヶ年間の進歩は殆んど隔世の感あり、是特種の理由なくして何ぞ如斯なるを得んや、然り而して爾來此精神を繼續し蠶業に盡瘁せる効果は空しからず、愛々として進歩し來れり、然れども余は現狀を以て樂觀すべきものと信ずる能はず、大に縣民の省慮を要すべき事あるを感ずるなり。

二、當局者と當業者との關係

當業者の自動的奮進する所なくんば、遂に効果を收むる能はず、今縣下當業者の態度を見るに必ずしも自動的奮進の形迹を認むる能はず、殊に從來當局者に於て奬勵せるものは栽桑養蠶にして、製絲業に於ける施設は養蠶の深厚なるに比し遜れる所あり、然れども普通製絲業を起すべきものは何れの地も発憂者にして敢て奬勵保護を俟たざるも縣下の現狀に對しては必しも製絲業を放任して自動的進歩を俟つは時機に適せるものと云ふべからず、熟考を要すべきものなり。

三、「物價」

從來の製絲業家が其經營上最も利便に浴せしは、實に物價低廉の點にあり、然れども今や「島根縣の要部」は鐵道貫通せり、是より西「島根縣」に入り今市、桂葉に達するに至らば、多少物價の騰貴を誘起すべし、殊に山陽線に達せば物價は著しく騰貴すべし是れ物價の將來に對しては豫め製絲業家の覺悟を要すべき事なり。

四、金「融」

製絲資金を横濱問屋に仰ぐものと、地方銀行より仰ぐものとあり一樣ならざれども鳥取市の一部に於ては、地方銀行より乾繭を擔保として借入れ、製絲の上之に引替へ、繭は順次製絲するものあり、然れども倉用借を爲す所なくんば、大體に於て金融逼迫に至らざるも島根縣の或力面には、繭伸買商等が思惑を以

大日本蠶絲會富山支會婦人部職員

懸賞募集

一と口噺

（第八回投稿）

人

○蔭口　三河ツシ○

見番『皆さんの内で蠶絲會から功績表彰を貰つた方が一人もないのを殘念に思ひます』

芸妓は黙て『見番だつて貰はないくせに』

て鑑及び生絲を買占め投機的運動を爲すもの多き地方は比較的金融緊縮の傾きあり、一物の地は中央山脈を以て山陽道と區劃され、又交通の不便冒に絶せり、即ち鳥取市より山陽線に出づる交通の不便は、福津線上に出て、姫路線に通ず、此線は伯耆國倉吉町より岡山に至る二十四里餘にして二十四里に上に逸す、津山線に同れも山間峻なる坂路にして辛ふじて人車を通ず、又島根線より山陽線に出つるに赤名峠山間は三十里餘又濱田より廣島間三十里餘又津和田より三田尻に出づるに十七里。

右の如く交通不便の地は僅かに海路により其大半の交通を行ふ、然れども生産業の未だ發達せざる爲め物の集散少なく、船舶の完期航海も往々期日を延し交通上不便又尠しとせず。

交通の不便は製絲業上著しき不利益にして、原料及び製品の運搬に損失多く上受る損失は優に出し三圓八十錢と雖ども近來坂鐵道の連絡にては、生絲一棚の積出し三圓八十錢を要す、右は中央山脈方面を越えて横濱に延るものあり、坂鐵道線は路の不便なるを以て、大坂商船會社に對し廉分の補助を爲し、同會社をして定期航路を開かしむるに至れり。

米子より鳥取縣に出て、山陰線に合するもの、鳥取縣より東行伯耆國倉吉より岡山縣津山線に向け早稲田を見るべく、又鳥取市より馬場線に出て、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に向け工事中なり、是より西行沿出を經て、備前國和田を經て、鳥取縣境に出て、山陰線に合するもの、明治廿四年中央山脈を貫通して、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に出づる線路は、福津線上に出て、姫路線に通ず、此線は伯耆國倉吉町より岡山に至る二十四里餘にして、津山線に通ず、津山線に出つるに赤名峠山間は三十里餘又濱田より三田尻に出づるに十七里。

右の如く交通不便の地は僅かに海路により其大半の交通を行ふ、然れども生産業の未だ發達せざる爲め物の集散少なく、船舶の完期航海も往々期日を延し交通上不便又尠しとせず。

交通の不便は製絲業上著しき不利益にして、原料及び製品の運搬に損失多く上受る損失は優に出し三圓八十錢と雖ども近來坂鐵道の連絡にては、生絲一棚の積出し三圓八十錢を要す、右は中央山脈方面を越えて横濱に延るものあり、坂鐵道線は路の不便なるを以て、大坂商船會社に對し廉分の補助を爲し、同會社をして定期航路を開かしむるに至れり。

米子より鳥取縣に出て、山陰線に合するもの、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に向け工事中なり、是より西行沿出を經て、備前國和田を經て、鳥取縣境に出て、山陰線に合するもの、明治廿四年中央山脈を貫通して、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に出づる線路は、福津線上に出て、姫路線に通ず、此線は伯耆國倉吉町より岡山に至る二十四里餘にして、津山線に通ず、津山線に出つるに赤名峠山間は三十里餘又濱田より三田尻に出づるに十七里。

右の如く交通不便の地は僅かに海路により其大半の交通を行ふ、然れども生産業の未だ發達せざる爲め物の集散少なく、船舶の完期航海も往々期日を延し交通上不便又尠しとせず。

交通の不便は製絲業上著しき不利益にして、原料及び製品の運搬に損失多く上受る損失は優に出し三圓八十錢と雖ども近來坂鐵道の連絡にては、生絲一棚の積出し三圓八十錢を要す、右は中央山脈方面を越えて横濱に延るものあり、坂鐵道線は路の不便なるを以て、大坂商船會社に對し廉分の補助を爲し、同會社をして定期航路を開かしむるに至れり。

米子より鳥取縣に出て、山陰線に合するもの、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に向け工事中なり、是より西行沿出を經て、備前國和田を經て、鳥取縣境に出て、山陰線に合するもの、明治廿四年中央山脈を貫通して、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に出づる線路は、福津線上に出て、姫路線に通ず、此線は伯耆國倉吉町より岡山に至る二十四里餘にして、津山線に通ず、津山線に出つるに赤名峠山間は三十里餘又濱田より三田尻に出づるに十七里。

右の如く交通不便の地は僅かに海路により其大半の交通を行ふ、然れども生産業の未だ發達せざる爲め物の集散少なく、船舶の完期航海も往々期日を延し交通上不便又尠しとせず。

交通の不便は製絲業上著しき不利益にして、原料及び製品の運搬に損失多く上受る損失は優に出し三圓八十錢と雖ども近來坂鐵道の連絡にては、生絲一棚の積出し三圓八十錢を要す、右は中央山脈方面を越えて横濱に延るものあり、坂鐵道線は路の不便なるを以て、大坂商船會社に對し廉分の補助を爲し、同會社をして定期航路を開かしむるに至れり。

米子より鳥取縣に出て、山陰線に合するもの、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に向け工事中なり、是より西行沿出を經て、備前國和田を經て、鳥取縣境に出て、山陰線に合するもの、明治廿四年中央山脈を貫通して、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に出づる線路は、福津線上に出て、姫路線に通ず、此線は伯耆國倉吉町より岡山に至る二十四里餘にして、津山線に通ず、津山線に出つるに赤名峠山間は三十里餘又濱田より三田尻に出づるに十七里。

右の如く交通不便の地は僅かに海路により其大半の交通を行ふ、然れども生産業の未だ發達せざる爲め物の集散少なく、船舶の完期航海も往々期日を延し交通上不便又尠しとせず。

交通の不便は製絲業上著しき不利益にして、原料及び製品の運搬に損失多く上受る損失は優に出し三圓八十錢と雖ども近來坂鐵道の連絡にては、生絲一棚の積出し三圓八十錢を要す、右は中央山脈方面を越えて横濱に延るものあり、坂鐵道線は路の不便なるを以て、大坂商船會社に對し廉分の補助を爲し、同會社をして定期航路を開かしむるに至れり。

米子より鳥取縣に出て、山陰線に合するもの、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に向け工事中なり、是より西行沿出を經て、備前國和田を經て、鳥取縣境に出て、山陰線に合するもの、明治廿四年中央山脈を貫通して、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に出づる線路は、福津線上に出て、姫路線に通ず、此線は伯耆國倉吉町より岡山に至る二十四里餘にして、津山線に通ず、津山線に出つるに赤名峠山間は三十里餘又濱田より三田尻に出づるに十七里。

右の如く交通不便の地は僅かに海路により其大半の交通を行ふ、然れども生産業の未だ發達せざる爲め物の集散少なく、船舶の完期航海も往々期日を延し交通上不便又尠しとせず。

交通の不便は製絲業上著しき不利益にして、原料及び製品の運搬に損失多く上受る損失は優に出し三圓八十錢と雖ども近來坂鐵道の連絡にては、生絲一棚の積出し三圓八十錢を要す、右は中央山脈方面を越えて横濱に延るものあり、坂鐵道線は路の不便なるを以て、大坂商船會社に對し廉分の補助を爲し、同會社をして定期航路を開かしむるに至れり。

米子より鳥取縣に出て、山陰線に合するもの、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に向け工事中なり、是より西行沿出を經て、備前國和田を經て、鳥取縣境に出て、山陰線に合するもの、明治廿四年中央山脈を貫通して、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に出づる線路は、福津線上に出て、姫路線に通ず、此線は伯耆國倉吉町より岡山に至る二十四里餘にして、津山線に通ず、津山線に出つるに赤名峠山間は三十里餘又濱田より三田尻に出づるに十七里。

右の如く交通不便の地は僅かに海路により其大半の交通を行ふ、然れども生産業の未だ發達せざる爲め物の集散少なく、船舶の完期航海も往々期日を延し交通上不便又尠しとせず。

交通の不便は製絲業上著しき不利益にして、原料及び製品の運搬に損失多く上受る損失は優に出し三圓八十錢と雖ども近來坂鐵道の連絡にては、生絲一棚の積出し三圓八十錢を要す、右は中央山脈方面を越えて横濱に延るものあり、坂鐵道線は路の不便なるを以て、大坂商船會社に對し廉分の補助を爲し、同會社をして定期航路を開かしむるに至れり。

米子より鳥取縣に出て、山陰線に合するもの、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に向け工事中なり、是より西行沿出を經て、備前國和田を經て、鳥取縣境に出て、山陰線に合するもの、明治廿四年中央山脈を貫通して、鳥取縣倉吉より岡山縣津山線に出づる線路は、福津線上に出て、姫路線に通ず、此線は伯耆國倉吉町より岡山に至る二十四里餘にして、津山線に通ず、津山線に出つるに赤名峠山間は三十里餘又濱田より三田尻に出づるに十七里。

右の如く交通不便の地は僅かに海路により其大半の交通を行ふ、然れども生産業の未だ發達せざる爲め物の集散少なく、船舶の完期航海も往々期日を延し交通上不便又尠しとせず。

交通の不便は製絲業上著しき不利益にして、原料及び製品の運搬に損失多く上受る損失は優に出し三圓八十錢と雖ども近來坂鐵道の連絡にては、生絲一棚の積出し三圓八十錢を要す、右は中央山脈方面を越えて横濱に延るものあり、坂鐵道線は路の不便なるを以て、大坂商船會社に對し廉分の補助を爲し、同會社をして定期航路を開かしむるに至れり。

交通の爲めに受くる利益を知るもの暫らく交通の爲めに避くべからざる苦痛あることを豫想せざるべからず（未完）

聖德太子の養蠶教註釋（一）

農商會員　石田孫太郎

聖德太子の養蠶教

蠶の養法には從來の赤子に於けるが如くせよ、嘗て蠶農の無效發育に鑑ひ、養かれず冷かなるべき和なる機氣を避けし、養後間斷なく熱力を惜すべし。

是は之れ聖德太子の養蠶教として傳へられて居るものであるが、世間には之を以て後世の僞作であると云ふ者もあるが、併しながら蠶業家としての吾輩は其信憑を論辯するの必要なく、聖德太子が吾輩に降し賜ひたる養蠶教として謹んで戴仰し日夜御旨に從はざらんことを期するのである、恭しく惟みるに此養蠶教は養蠶上千古不磨の意典と言ふ可きもの、高人偉德に此御旨に從へば泰蠶豊秋、國内の蠶に對しては、夫なる聖作を見ぬと云ふことはない、茲に於て吾輩は同志者と共に聖德太子蠶教遵會なるものを起し、一は文書を以て二には口演を以て、太子の遺教を傳へんとして居るが、五萬の蠶業家並びに有力者を以て組織されて居る、大日本蠶業會の會報に於て、遺教に對する吾輩の所見を述ぶるを光榮とし其深の敬意を表しつゝ、淺劣ながらも愚見を以て註釋することとした。

却說金ヶ林題に入るのであるが、遺教は流石に王師の言文あり、養蠶上の大主眼を示されたばかりで、養蠶家が今日實驗するには少しく不足の點もあるが、即ち遺教は養蠶術の奥義を明示したまへるもの、此遺教の明ではない、左れば吾輩が茲に註釋せんとするのは、此遺法の講義に非ずして、此養蠶法が近世の養蠶法と如何に違ふかを明かにし、養蠶家が今日の養蠶法に於ける處の養蠶法が註釋の趣旨を奉ずる處の如何なるものであるかを說かんとするのである、蓋し凡そ遺教が總括的であつて、說明的でないから、其註釋を爲すにも稍困難を感ずることである、故に吾輩は遺教の便宜上左の數項に用ひて說明するのである。

一、父母の赤子に於けるが如くせよ

此項目に於ては、主として給桑除沙分蔟等の事を、父母の赤子に於ける慈愛を眼目として敍述する積りである。

二、寒暖陽氣の加減宜敷我身に儆へ

此項目に於ては寒暑乾濕の事を述べ、蠶を欲する陽氣とは如何なるものか、我身に儆へ處置は如何にすべきかを敍述する。

三、平和なる樣陽氣を廻らし

此項目に於ては蠶常の取扱法を述べ、常に平和なる陽氣として置くの方法を講じ見たい。

四、晝夜間斷なく精力を惜すべし

此項目に於ては養蠶家の總括的心得を述べ、太子の主義は道德即養蠶法であることを宣明するのである。

五、結論

此項目に於ては上記一切の説明を總括し歸納して、最德太子の蠶教に基き夏秋蠶を通じ、如何なる場所、如何なる時にも一大豐作法の奥義であることを述べたいと思ふ。

父母の赤子に於けるが如くせよ

一　蠶の胎教

親として子を愛せぬ者はない、這へば立て、立てば歩めと思ふ心は、親たる者の一念、甘い、物は子に與へ、汚れたるは清め、生び立ち良かれと願らぬ親は一人も無い、蠶を養ふにも其心掛は勿論必要であるが、我々に胎教の必要あるが如くに蠶には卵の保護が入用である、先づ春蠶から言へば卵を生ませるには空氣の流通の十分な室に於てし、産後約三日間卵が黑褐色に變ずるまで絶對に種紙を上にして並べ置き、それからは黑褐色に變ずるまで空氣の流通宜しき室に吊し置く、十二月頃になれば即ち此時期は成り可く寒冷にして温氣に當ないのを主とするのである、盒々桑の芽が出て揃立に近けば、其發生豫定前十五日に取出して、家の南面最も温かき處に吊して置き、一週間段々と陽氣に觸れしむるのである、次の一週間には初め少量の炭火を用ひ、一日に一二度宛めて行き、後一週間の終りの日には七十三四度にすると、箱から出してから十五日目に

少量の桑葉を撒布して紙の上に覆へせば、蠶は神と共に紙の上に落つるを待ち、即ち手早く且つ柔和に攪拌して、春蠶は蟻量一匁を一坪二分、夏秋蠶は蟻量一匁を一坪三分に擴げるが良い、擴げ終らば一坪に付桑の細かに刻むだものを三匁見當に與へて、所謂掃立を終るのである。

二　給桑の心得

給桑の回數は一定しないが、春蠶に於ては一齡中は一日に七回、二齡は六回、三齡は五回、四齡は四回、五齡は四回、夏蠶に於ては一齡中一日に五回、二齡八回、三齡七回、四齡六回、五齡五回、秋蠶に於ては一齡中一日十一回、二齡七回、三齡九回、四齡八回、五齡七回と見れば良い、何事も温度との相談である故、一定して置く可きものではなく、而して給桑の心得としては春蠶の三齡迄は日中、夜分最終の桑は、晨朝に、四五齡になると朝と夕とに深山與へるが良い、夏秋蠶に於ては朝よりも夕に至る迄成る可く回數を增すとも桑量を增さぬが良い、又夜分の最後の桑は二割方も增して置くべきである、それから特殊の給桑心得であるが、凡て蠶の盛食期には平常の三割方は增すべく、同時に成る可く涼しくすべきである、盛食期に溫度が高い時には桑を食はずに眠る者が出來る、又既に飽食したる者は眠を急ぐから、成る可く涼しくして置いて、溫度で急がしめず、其揃れたる者に食はせて、殆んど同一の時間に眠らせるのである、吾輩之に名けて「汽車の發着式就眠法」と呼んだ、今も有て理ケ事と信じて居る斯樣に盛食期に飽食せしめれば皆眠に就かうとするから、其上に一二齡は桑葉三四齡は稚蚕を撒いて、又稍多量に給桑し小さい時分は給桑二回にして除沙分を節約し通常の給桑を爲すのである、蠶あり其上に眠分を節約したることなれば、桑量を大に減じて桑留とすべきである、人間は桑量を減ずる時は眠が揃はぬ、二回後は大に減じて此處等が夜食の滿腹であらう言へば、飽じい泣寝入りではない、滿腹しての樂寝である、それから餉食であるが、此餉食は猶我が大病より本腹より稍何食と同一である、我輩が通常眠とする處の食物に於て成す事せんが爲めに其上に堅き蕎麥の粉を振掛ける事は實に一大事業であるが、之が爲めに其上に堅き蕎麥の粉を振掛ける事は實に一大事業であるが、之が爲めに其上に又皮を殷くのであるから、蠶に取りては實に一大事業であるから、蠶に取りては實に一大事業であるから、蠶に取りては實に一大事業であ

る者の如きよりして、多くの年に繭を澤山に與へやうとする、若し此飼食に多量の桑を與へる酷薄は之れ以上の事はない、若し此飼食に多量の桑を與へるならば、一度や二度は澤山に食べ過ぎて、而して蠶は段々仲びて可き筈なるに、急々細みて來る、之れは病食より來る處の悪細(早蔫)を結ぶ習みのない蠶となつたのである、人間に於ても往々病むことを見る、小供が大病から恢復する、食を求めて見る、甚だしきは「しかうと」て甘いものを欲する、之れは病食より來る處の悪細である

氏が考案する所吾人は今練減に就て云々するも只其當を得るに若む。

然れども之れに就ては世に已に定案のあるあり、生絲精練の工程に加ふるに、猶一つ單易の撚絲工程を經て始めて賣買取引せらるゝに至らんことを。

さて取引するの際實は之れに伴ひ來るべし、又取引上の困難を緩密に檢査するは其の數等大に得失あり、又や練減檢査を取引に依て吾人は此練減が大なる關係のあるを思ひ、少くとも其取引上に公然たる關係があらしむるにあり、又や練減檢査を施すは其正量檢査へ行ひ難きも正量檢査の如く何れなる檢査實施の要を認めざるべからざるの理の如く哀れにも之れを時々世界に共通せる現行法可なりと雖も、只異にすべき練減檢査と施すは其他檢査現定に就ては、其練減後の無水量に比較して練減量を比較するに止まらず練減後の無水量により一件の總精練無水量の二割八分を求め、之れに公定練減率の量即ち總精練無水量を加算して精練上に於ける所謂正量を算定するにあり例へば左の如し。

練糸　水分率　蒸水率　蒸氣率　蒸餾率　蒸水率

$$N\ (100g-10g+20g+30g+2g)\ /\ 24g=105g/24$$

公定練減率　正量

$$105g/24\times 12\times 11=105g/2$$

練糸の撚引量

$$105g/2\times 12\times 11=105g$$

公定練減率　正量

$$105g/2\times 12\times 11+105g/2\times 12\times 28\times 0.28=\cdots\cdots 126g/2$$

練糸の撚引量

$$126g/2\times 12\times 11+126g/2\times 12\times 28\times 0.28=\cdots\cdots 126g$$

練糸　水分率　蒸水率　蒸氣率　蒸餾率　蒸水率

$$N\ (100g-10g+20g+30g+2g)\ /\ 24g=105g/24\cdots\cdots 126g/2$$

公定練減率　正量

$$105g/24\times 12\times 11=105g/2$$

$$105g/2\times 12\times 11+105g/2\times 12\times 28\times 0.28=\cdots\cdots 126g/2$$

練糸の撚引量

$$126g/2\times 12\times 11+126g/2\times 12\times 28\times 0.28=\cdots\cdots 126g$$

等の問題は發達するに從ひ生絲は逐に現今の如くならず、其大部分は繰絲の工程に加ふるに、猶一つ單易の撚絲工程を經て

以上の二例に於て其前者は、約日本生絲に當る後者は伊佛絲に近し、而して其計數を見る、前者は水分の少しく多きによりて約二分減算せられ、練減少きゆゑ少し加算せられたり、即ち百分の原量が種々の結果一分七厘減じて九十八分三厘となれり、後者は水分に於て約八厘減算せられ、猶練減多きゆゑ七分七厘減算せられ百分の原量が六分九厘減じて九十三分一厘となり、後者の取引量を示す、此九十八分三厘又は九十三分一厘は即ち後の如く練減檢査は水分檢査と關係するを以て勿論兩者は相關聯して檢査を行ふを可とす、而して水分の多少により原量に對する練減の呼號大に異なる、又從來の如く水分率を呼ぶに原量に對する練減率を呼ぶは、其公定率に比較する上に於て迂遠視せらるゝ嫌ひあり、然るに若し日本絲の含水率原量に對して一割七厘を無水量に對して呼ぶときは一割三分二厘となりて公定率に比し直ちに二分二厘多しと合點し、又伊佛絲の練減率無水量に對して呼ぶときは三割六分八厘となりて公定率に比し直ちに八分八厘多しと云ふことを掛るなり。

練糸　水分率　蒸水率　蒸氣率　蒸餾率　蒸水率

$$N\ (100g-10g+20g+30g+2g)\ /\ 24g=105g/24$$

公定練減率　正量

$$105g/24\times 12\times 11=105g/2$$

練糸の撚引量

$$105g/2\times 12\times 11=105g$$

練糸　水分率　蒸水率　蒸氣率　蒸餾率　蒸水率

$$N\ (100g-10g+20g+30g+2g)\ /\ 24g=105g/24$$

公定練減率　正量

$$105g/24\times 12\times 11=105g/2$$

練糸の撚引量

$$105g/2\times 12\times 11=105g$$

又練減檢査上起るべき他の事故は其生絲が增量したるものなるとき、或は變質又は不正のものなるときにあり、尤も此如き場合は稀にして特別方法あるべしと雖ども、其不正生絲增量劑の如何にして、練減檢査の効力を良くするものなれば之れが法意も亦無用にあらず、以上の如き理由より吾人は左に練減檢査に施行すべき件を列擧すべし。

1、檢査は萬國公法なるは勿論、其使用する藥品、水質等必ず同質のものなること。

2、水質藥品時間等を測定し可成生絲に損傷を與へざること。

3、練したる後の液汁の反應を檢し其練減物質を檢定すること。

4、增量、不正の疑ひあるものは之れを特別法により檢査すべきこと。

5、精練無水量を計出し、之れに練減公定率による量目を加へ、精練正量を算定すること。

6、精練正量取引を喚起すべきこと。

7、檢査は請求に應じ一件中の一部に就て行ふこと。

結論

吾人が主張せんとする高國生絲練減率の公定や、以上の如く、其根本に於て大なる理由は存在せず、其各國生絲の練減量大差ある所に於て又水分量の如く、時と所により人爲の作用により之れを異にするのみならず、殊に近來增量の生絲に於ては、取引上其量は實に無用にあらざるは、明らかにして、行はるゝ今日無用にあらざるなり。

目に關する所極めて大にして價格上實に忽せにすべからざる目に關する所極めて大にして價格上實に忽せにすべからざる目に關する所極めて大にして價格上實に忽せにすべからざる

蠶絲業と日本大博覽會（承前）

子爵　金子堅太郎

〔本編は既に時節遅れの感なきにあらざるも余輩再讀三讀の價値あるものなれば更に引續き本紙に掲載することゝなしたり。〕

そこで又日本の內地の有樣は如何、只今のは世界の大勢である。日本の輸出の總高は四億二千三百萬圓、最近の統計によれば——。其外國貿易で輸出品の四億二千三百萬圓の內で何が一番多いかと云へば生絲である。生絲は一億一千萬圓即ち輸出總額の四分の一を占めて居る。是は羽二重を除いて、生絲だけです。實に私は生絲位日本の國家の經濟に必要なるものはないと思ふ、生絲に少し狂ひが生ずれば國家の經濟には非常な影響を及ぼす。四億二千三百萬圓の內、生絲が一億一千萬、次が三千五百萬、是は紡績絲、次が三千二百萬、是が羽二重、蚕蛹、蚕蛾家の手から、日本の輸出品の第一と第三を握って居る國は世界に於て恐らくない。諸君の家族が蚕蛹する一つの繭、絲を繰る一つの框が、國の輸出の總高の四分の一強を占めて居ると云ふ國は外にない、實に是は私は名譽の仕事と思ふ。而して單り內國の輸出の上での歩合のみならず世界に於ける絲の三つの足の一つ、其一つの足も最も重要なるものに日本はなって居る。而して其足の力と太さが年々殖えて、支那、伊太利、佛蘭西に比較すれば、二十五歩六厘の割合として進んで居るからして、殆ど日本の生絲に於てあらされば世界の貴婦人も絹を著ることも出來ぬ、文明國の男子も絹を纏うことも出來ぬ、即ち此生絲が曾て世界の贅澤品及必要品になって居る。故に蚕蛹製絲の世界、博覽會を期として此日本の生絲が歐羅巴亞米利加から上得意として、日本々位にして、此生絲の輸入をされるや否やと云ふことを、今度は實地に於て必ず見るであらう、來れば必ず此蚕蛹製絲地に彼等は來て見るであらう、必ず蚕蛹製絲地に彼等は來て見るであらう、又製絲場も見るであらう、來れば必ず此蚕蛹製絲地にあるや否や、其生絲の富源の輻はどれ程あるか否やと云ふことを自ら觀察するに違ひない、故に今度の博覽會は、蚕絲業が即ち中心點になると云ふことは、事實此絲が果して生絲にあるや否や、其生絲の富源の輻はどれ程あるか否やと云ふことを自ら觀察するに違ひない、故に今度の博覽會は、蚕絲業が即ち中心點になると云ふことは、事實此絲計の上から現はれたことである。

而して此生絲は、御承知の通り日本では百分の二十ほか消費しない、百分の七十と云ふものは歐羅巴亞米利加に行く。それで為に、亞米利加でも經濟の原則は致方がないものと見て、己れの資力以外に事業物興もすれば、必ず何れの時にか銀行に抵當を求たる。そこでバッタリ失敗したる爲に、銀行は取付が來る。今日本に於て經濟界が悪境に陥ったとか、養蚕製絲が不景氣に沈倫して居るなど云ふが、亞米利加の昨年の冬の有樣を比較して見ると、それは比例にならぬ程日本は全だ宜いのです。今日でも尚ほ米國では、これの財產を德て銀行に預けて、其利息で喰ふと云ふ富豪の人が、一夜の內に貧無に なって、友人親戚の資に衣食しなければならぬやうになったのが幾ばくか居る結果があって、然るに亞米利加國民全體は少しも影響を被つては居らぬ、唯一時其金の能く廻つた、人の金を預る銀行及び信托會社の人が、餘る程預金があるから、それを普事業に打込んで利を得やうとした大部分が失敗したので、亞米利加人千萬の人民の大部分は國民が打擊を受けて居らぬが故に、諸君の生絲に左して響く譯のものではない、全體から言へば亞米利加

商も控える、絹工亞米利加の經濟界が恐慌を來たしたけれども、一體國民全體には響いて居らぬのである、それで是は全く一時の株熱物興の結果であつて、永く續くものではないと私は斷言する。それ程に國は決して昨年の秋以來の事業に於て此養蠶製絲の本業に於て御心配にならずと、己れの事業の上に就て御心配にならずと、己れの事業の上に就て御心配にならずと、己れの事業の上に就

いから、それは機械などで、蛾が卵をひり付ける所などを見せて、それから蠶卵紙が出来る。それから季節になつて孵化する小さな蟻が出来る。それから桑の葉を食べて成長する所の桑は如何なる桑か、生えた蠶の新芽の桑。是も必ず七月の間に新芽を出す譯には行かない。段々一眠二眠三眠と進んで行く就て見ると、其處には或は蟻細工の子供、又は奇麗な娘などを置いて生絲を出して来た羽二重などを華やかな織物にして作つた梔、此宿はどうして養蠶の有樣を見せる。それから竹で作つた蔟になつて、それを蒸殺する所。乾燥の方法。それからそれを煮繰にするのと、機械繰にするのと、二通りそこに實物の器械を見せる。機械の所を着けて、見苦しかぬ衣裳を使ふか、男を使ふか、是にも奇麗な女を使ふか、男を使ふか、是にも奇麗な衣裳を着せて、虫繰して居る所。これは云つて美に出る流行の衣裳を着せて、虫繰して居る所。悪く百人取り二百人取りの代表的の十人か十五人の工女工男を置いて、虫繰の模樣をそて見せる、それから之を揚饗にする。之を械繰の模樣をそて見せる、それから夫れをすつかり荷作りする。所で生絲檢査所の形を全然其處に持つて来る。そこで生絲檢査所に於ける水分の檢査から彈力の檢査、デニールの檢査、總査所に於ける水分の檢査、是だけの一つ具體的の概略を私が御參考に為つて見せて、それから其次には此生絲を羽二重にすれば斯うなる、各種の組織にすれば斯うなる、各種の組織にすれば斯うなる、それはまだ足らぬから、此を一反から二反迄宛標本を見せる、それは生絲が厳重に行けば里帰には斯う云ふ織物になる、伊太利の美術に行けば此織物になる、米利加のパタソンに行つたら其織物の實物を見せる、巴に行けば此織物を使つた所の生絲が歐羅巴に行つた所の生絲を使つた所の織物の實物を見せる、是は是であるとして、世界に於て日本の生絲を使つた所の織物の實物を見せる、是は是であるとして、世界に於て日本の養蠶を歴史的、學術的、世界的に之を世界の人に見せたなら、恐らく明治六年の費用が高國博覽會を見た以來、佛蘭西又は米國に於て斯くの如き計畫をしたものはない、それを今度の博覽會に於て見せたら、此一つで萬里の波濤を越えて來る外國人人は、もう高い旅費を拂つて日本に來ても、是より外の呼物はない、如何れ一つさへ見れば宜いとなる、見せたら外國人が感じ感するものは養蠶製絲製の外は無しと云ふ事は、必ず、其翌年から、私は日本の生絲を一つさへ見れば宜いとなる、今より數十倍と思ふ。又この日本の製絲の有樣から、養蠶の方法を考へたつて外國人が感じ感するものは養蠶製絲製の外は無しと云ふ

ある。日本でも滿洲經營など〳〵言つてゐるが中々獨逸の眞似はさて置き驢尾にも稗にも尾けたものではない。

農業教育

獨逸の教育の盛なことはざつと上の樣である。教育はといふと、流石に獨逸だけあつて亦中々厳律を極めて居る。週日の間には農業に關する各種の大會といふものがあつて無論、演說會もある、講習會もある、講話會もある、講演會もある、讀話會もある。獨逸の農民は、之等の會へ集まつて來る者は多くの老頭の老人で、日本でいへば文化、文政時代の人である。之等の人々は各地方の農民を代表して來るので、演說會や協議會で得た新知識を土産に持つて歸るといふ具合になつてゐる。此一週間といふのは夫れは〳〵お祭りを見る樣な賑さで、新聞でも雜誌でも盛に之に關する記事の文字を並べて書き立てるのである。

又獨逸の都會には必ず農業會議所といふものがあるが、ランデンブルグの農業會議所（ベルリンにあり）の如きは農業週間の大會となると田舍から農民が深山集をつつて來るばかりでなく、大學の教授も來れば、司法官も來る、文部の官吏も來る、之等の人が來るかと思へば內務の官吏も來るといふ有樣で、身分の高下を問はず皆一所に一團となつて會に列するのである。夫れが清酒に大學の教授は研究の新材料を得やうし、內務の官吏は、其地方自治の現狀、農民の心情等を察し得やうといふもので、官吏が農民の間の情がよく疎通して不知不識の間に凡ての方面に著大の進步を見る仕掛になつて居るのである。

大學の聽講生

獨逸の國民は新智識を得るのを以て非常な名譽と心得て居るところから、別に先げても御此研究を惜まぬので日本なら畢竟老人の冷水と一笑に附し去らるゝところである、そんな具合で獨逸の農業といふものは勢ひ進步せずには居ぬといふ結果になつて居る、殊に獨逸には到る處に試驗場の設けがあるので、自然農家で之れは怪しい……と思ふものは直ぐ試驗場に依賴して鑑定して貰ふとか、分析して貰ふとかするので、自然此間に存在する悪原因は除かれるのである。之は一寸した例だが數年前フランクフルトアムマインの大會に三の肥料會社が不正品を賣つた爲めに夫れが露顯に及んで忽ち自然滅亡してゐる。

敎育はといふと、流石に獨逸だけあつて亦中々厳律を極めて居る。週日の間には農業に關する各種の大會といふものがあつて無論、演說會もある、講習會もある、講話會もある、讀話會もある。獨逸の農民は、之等の會へ集まつて來る者は多くの老頭の老人で、日本でいへば文化、文政時代の人である。之等の人々は各地方の農民を代表して來るので、演說會や協議會で得た新知識を土産に持つて歸るといふ具合になつてゐる。此一週間といふのは夫れは〳〵お祭りを見る樣な賑さで、新聞でも雜誌でも盛に之に關する記事の文字を並べて書き立てるのである。

又獨逸の都會には必ず農業會議所といふものがあるが、ランデンブルグの農業會議所（ベルリンにあり）の如きは農業週間の大會となると田舍から農民が深山集をつつて來るばかりでなく、大學の教授も來れば、司法官も來る、文部の官吏も來る、之等の人が來るかと思へば內務の官吏も來るといふ有樣で、身分の高下を問はず皆一所に一團となつて會に列するのである。夫れが清酒に大學の教授は研究の新材料を得やうし、內務の官吏は、其地方自治の現狀、農民の心情等を察し得やうといふもので、官吏が農民の間の情がよく疎通して不知不識の間に凡ての方面に著大の進步を見る仕掛になつて居るのである。

大學の聽講生

普通の學生の外に聽講生といふものを置いて居るから、權兵衛一學期間の講義日割が定まると、夫れがチヤンと印刷されて各地の書店の店頭に並べられる、そして講義でも聽かうと思つて其印刷物を買つて其月日の處を見ると何々先生の何の講義があるといふことがわかるやうになつてゐる。であるから學校によつては在學生よりも聽講生の方が多い所が深山にある。

試驗場の活用

獨逸の國民は新智識を得るのを以て非常な名譽と心得て居るところから、別に先げても御此研究を惜まぬので日本なら具合で獨逸の農業といふものは勢ひ進步せずには居ぬといふ結果になつて居る、殊に獨逸には到る處に試驗場の設けがあるので、自然農家で之れは怪しい……と思ふものは直ぐ試驗場に依賴して鑑定して貰ふとか、分析して貰ふとかするので、自然此間に存在する悪原因は除かれるのである。之は一寸した例だが數年前フランクフルトアムマインの大會に三の肥料會社が不正品を賣つた爲めに夫れが露顯に及んで忽ち自然滅亡してゐる。

ち潰れて終つたこんな風に奸商の各種の手段を以て騙ましやうとしても獨逸の農民は知つてゐるので、容易に看破されて了ふのである、之等の試驗場でも博士の五六人以下にドクトル若くは助手の十四五人は設いてあるので、一寸見ると空櫚の惠比壽樣にエライ贅物の樣だが、之に中々忙が清酒に大學の教授は研究の新材料を得やうし、內務の官吏は、其地方自治の現狀、農民の心情等を察し得やうといふもので、官吏が農民の間の情がよく疎通して不知不識の間に凡ての方面に著大の進步を見る仕掛になつて居るのである。

組合の利用

組合といへば直ぐ獨逸を聯想するが、獨逸國の農民は又よく組合を利用してゐる、組合は無論同業組合であるが、一市とか一郡とかいふ同一の利害關係を有して居る同業者が組合を組織して之れを利用してゐる。其の又利用活動が極めて盛んである、何故盛んかといふと夫れは結局組合で作つた品物を容易に檢査してもらへばかりでなく、組合員でない人でも其製品も買はねといふ風に凡て組合員の利益上は世間で其者を信用して買へば、從つて其製品も買はねといふ風に凡て組合員の利益上は世間で其者を信用して買へば、從つて得ないことになつて了ふからである。政府も亦其組合に就ては法律でチヤンと制裁を加へる樣になつてゐるので、組合の基礎も自然堅固である。

官廳學校

日本の組合

日本の同業組合の未だ思はしい結果を示さないといふものは畢竟農民の智識が一般に未だ充分に進んで居らぬといふことゝ組合の役員となる人に適材がないといふことゝが重なる原因であらうと思ふ。ナニ組合へ入つたとて只金をとられる丈で一向利益はない、馬鹿〳〵しいといふ考へが農民の頭を占領してゐるので自然組合へ加入することを忌ひのである。

であるから組合の役員となる人は何にせよ、彼等に滿足する利益を與へ得るかといふことに十分留意せねばならぬと思ふ。彼の蕪種の如きも自由競爭に任せて置けば生活難の爲めに他を排して自分の種のみを賣らうとするやうになる、夫れが組合を設けて組合員が作つた種は組合が買上げて之を檢査し、悪いものはドシ〳〵淘汰するといふことになれば、自然悪いものは其跡を絶つの樣になるのである。併し日本の農民は組織し、よく之を利用せよといふのは少し無理な注文で、今の智識の程度では望み得られぬことである。此上は只當局者と農民自身の反省とに待つて其智識を高めて行くやうにすることが肝要である

講定

蠶種の話（承前）

學士會員
農業講習所技師　土屋泰

上簇法

秋蠶を上簇するに就て、特別なる方法のある譯ではないが時恰も殘暑の甚しい際であるから、春蠶に比べて總ての取扱ひも迅速機敏にしなければならぬ、今左に二三の注意すべき要點を述べよう。

老熟適度の蠶を上簇せしむべし、春秋蠶の別なく、老熟の際高温である場合は、往々熟蠶の拾ひ取りが手廻り兼て過熟せしむるの弊を免れぬ、過熟蠶を上簇するよりも破ひは澤山あるが、今主なるものの丈けを擧げても、第一蔟總を混雜せしむること、第二同功繭を多く結ばしむること、第三不正形繭及び繭層片薄なるものを多からしむること等である、此等の弊害あることは、當業者に於ても既に詳知せらるゝ處であるが、當時如何にも温度が高くて、蠶の經過が速いので何ともも仕方がないと思ひながら過熟の際に陥るのであるが、故に熟蠶を拾ひ集むるに當りて、何とか節便迅速なる方法に依て手數を省くと同時に、老熟適度の蠶を上蔟することが肝要である。

熟蠶取法を實行すべし、私は熟蠶を集る便法に就て種々試みたけれども、就中柴取法が最も便宜の樣に信じたので何時も此法に實行を勧誘して止まぬのである、柴取法に於ては、蠶に行ふても手數を省くことは勿論であるが、秋蠶過の速かなるものに行ふて極めて妙である、此法に依りて熟蠶を取れば、上蔟の場合に於ても、飼育に從事した丈けの人夫で充分に足りて、蠶を過熟せしむる樣の手運れはなく、私は是迄上蔟のことを述べて置きたが、飼育にも、此方法の實行手續ることを述べて置きたいが、此方法の實行手續きの概要を述べて御勧め致します。

柴取法に用ゆる小枝は、僅樣其他雜木の小枝にして、厭ふべき惡臭のない樹なれば、何でも宜しい、枝は稍々繁りて生葉の附て居るのが よい、長さは一尺五寸乃至一尺に切りて三四本宛載せれば、六坪箔の全面に行き亘る位のものが適度である、此小枝は上蔟の當り刈り來れば申し分はないが、此際は柴刈に出る暇がないので、故に四眠蚕が桑止に中に刈り來るべき桑の葉の刈

ッの樂にして居る位だ、然れ共秋蠶が出來損はたら解舒の至難なることは、春蠶繭の比ではない、我慢にも限度がある、此繭が出來ぬ、秋蠶繭が例年解舒の易いのは何が爲であるか、是は朝出來損ねたら、解舒が難いのは何が爲であるか、是は主として温度と湿度との關係に由るのである。

上簇室は開放的であるし、從て絲繰の乾燥が春季よりも速かなる爲である、然るに五令期より上簇季に亘りて不良の雨天に遭遇したる場合に於ては、其の湿氣が繭の品質に及ぼす影響が甚だ大である、空氣湿潤の程度即ち湿度から云へば、春期も秋季も九十パーセントは九十度百度と云ふ程度に過ぎず、同じことであるが、絹絲に及ぼす關係に至りては、温度の高低に由りて大変がある、元來湿氣は一定度を過ぎて空氣中に存在する絹糸に對しては悪影響を與へるものであるが、例せは均しく湿氣を飽和せる空氣中で繭をせりたりとする時の温度が七十度内外であったならば、繭の光澤や解舒を害することは甚しからずであるに八十度乃至九十度の高温度を保てる飽和氣中に於ては、繭をせりたならば、其繭質は前者に比して甚しく不良である、即ち湿氣は高温の場合に於て、繭質を害することが急甚しいのである、是は秋蠶繭は出來損ねた場合に於て、解舒の至難となる所以である、故に上簇後其室内の湿氣を排除し、絲繰の燥となすことは第一の要務である、氣温が高ければ高い程此必要が急迫するのである、然るに温度が八十度にもなって居ると、室内は絶今多湿でも、火力を用ひて排湿等の手段を講ずるものゝ少ないのは遺憾である、室内の至難なることは、春蠶繭の比ではない、我慢にも限度がある、此繭が出來損ねたら解舒の易いのは何が爲であるか、是は主として温度と湿度との關係に由るのである。

上簇室は開放的であるし、從て絲繰の乾燥が春季よりも速かなる爲である、然るに五令期より上簇季に亘りて不良の雨天に遭遇したる場合に於ては、其の湿氣が繭の品質に及ぼす影響が甚だ大である、空氣湿潤の程度即ち湿度から云へば、春期も秋季も九十パーセントは九十度百度と云ふ程度に過ぎず、同じことであるが、絹絲に及ぼす關係に至りては、温度の高低に由りて大変がある、元來湿氣は一定度を過ぎて空氣中に存在する絹糸に對しては悪影響を與へるものであるが、例せは均しく湿氣を飽和せる空氣中で繭をせりたりとする時の温度が七十度内外であったならば、繭の光澤や解舒を害することは甚しからずであるに八十度乃至九十度の高温度を保てる飽和氣中に於ては、繭質を害することが急甚しいのである、是は秋蠶繭は出來損ねた場合に於て、解舒の至難となる所以である、故に上簇後其室内の湿氣を排除し、絲繰の燥となすことは第一の要務である、氣温が高ければ高い程此必要が急迫するのである、然るに温度が八十度にもなって居ると、室内は絶今多湿でも、火力を用ひて排湿等の手段を講ずるものゝ少ないのは遺憾である、室内の湿度は八十度でも多湿ときは、四圍の戸、障子や欄間や天窓などは、悉く開放して置いて、火力を用ひて盛に空氣の交換を促進すべきである、斯くして空氣の湿度は益々昇りて高きに過ぐる虞れはあるが解舒不良の大害を免ることが出來る、所謂大害を避けて小害に代へるのである、秋蠶の話も存外長くなりまして讀者諸君の倦怠を招くことを氣遣ひます就ては、まだお話しすることはありますけれども、他日題を改めて述べることゝ致しまして今回は是て御免を蒙ります。

（完結）

懸賞募集 一と口噺

第八回投稿

地

◎新聞紙　三河　T　K

坊『祖父さん、祖父さんは坊のお父様より目は餘程いゝのね』

祖父『馬鹿なことを云へ』

坊『でも新聞紙を讀むに遠くの方へ差出して讀むからさ』

高田式の桑畑

高田重右衛門君

鑊鑠たる哉老翁

風は胡沙吹く奥の國、秋田縣に老農あり、姓は高田名は重右衛門と、君夙に蠶桑の業に勉め、就中養蚕業に於て抜群に秀でゝ、早くより斯界の老手として尊崇せられ、晩年及び高田仕立の流を創立して一層其名を知らる、君嘉永二年に生れて今や齢耳順を超ゆ、而かも一度長鍬を振って隴頭に立たんか、鍬刃受々として桑枝爲に靡き、鑊鑠たるかな老翁、真にして其教を受けし者幾萬人なりや、想到すれば又更に敬すべき哉。

驚くべき熱心

君蠶桑の間に人と爲り、日夕之を見聞していたく其熱趣を感服し、漸々長ずるに及びて遂に蠶と桑と伍して圃に蛙と混ひつゝ、桑の生枯に云ひしらぬ想を潜めたり、君明治十年養蠶業に從事し、桑樹春切の改良を實驗してよく其得ることあり、佞らと雷業者に傳授せり、翌年より本郡は勿論、隣郡、各村を巡廻して養蠶法及び桑樹春切法を傳授し、二十年よりは縣内各地を巡歴し、二十一年山形縣、西置賜郡に於て桑樹春切法を傳授するに努め、二十一年山形縣、西置賜郡に於て桑樹春切法を傳授する事所に赴て其風聞を高めたり、時日一を重ねて、其間に立ちて其蠶種の製造に五年間に立ちて其蠶種の製造に立ち一度蠶種の製造に立ちて其蠶種の製造に立ち一度蠶種の製造に立ちて其蠶種の製造に立ち一度蠶種の製造

るに人を以てし、之を用ひるに、眞に稀世の人たるを失はず、況や夫れ高田式仕立法の鼻祖たるをや。

功勞と受賞

明治十九年十月秋田縣物産品評會に其獲たる繭を出品して三等木盃を受けたるを初めとして、各地の共進會、品評會、博覽會等、繭、桑樹を出品して受賞せるもの前後數十回、明治三十四年には東京帝國大學より桑樹仕立法の功勞により感謝狀を贈られ、明治三十年には本會規定によりて功績を表彰せられたり、鳴呼、渾身の技之れ桑樹の仕立のみ、一藝に堪能なるものは又百事に精しと、今にして蠶界が君を得たるを悅ばずんばあらざるなり

關東州の柞蠶業

（承前）

遞信書記　小田宗孝

家蠶

關東洲內に至る所殆んど桑樹の栽植せざるなきが如し、特に金洲管內各地に於て其多きを見る、即ち普蘭店管內三家子附近の如き、鎭子溝管內唐家房楊樹底附近の如き、黃咀子廟子附近の如き、順大連管內北大連附近の如き、蠶家溝利家店附近等主もなるものにして、旅順管內に於ては稍多く、大連管內に於ては稍多きが如し、然れ共之等は皆住家の周圍に點々栽植するものにして、特に栽植せるものに非ず如何狀態なるを以て栽培法の如き、調査するの價値なきは勿論敢て良種と認むべきものの更に見らざるなり、然れども土人は皆多少の養蠶上の觀念なきに非ず如何となれば、極めて少量なりと雖至る所家蠶を飼育せざるなきを以てなり、されど之等は眞に婦女子の娛樂的に過ぎずして、未だ一部の生產業として見るべき域に達せず、其創始の古くして分布の廣き所など洲內全部に亙り、豫想の外に出づるものあり、然れども其發達の極めて緩慢にして、今尙幼稚の域を脫せざるは、種々の原因あるべしと雖、一般農業の狀態粗放にして、家蠶飼育の如き精密を要する事業の適切ならざりしも一因ならざるべきか、且つ其收繭は極めて少量なるを以て計上せざるなり、生絲の如き絹織の材料を爲す人位に過ぎず、前項に述べたる如く、氣候風土の關係上、願る適切なるも、土人の家屋は防寒的に築造せるゝを以て空氣の流通滑らかならずして、育蠶上適切なりと云ふ能はず、果して然らんには蠶を以て關東洲の一大產物として、發展せしめ得べきやは、疑問に屬するものと云はざるべからずと雖、部分的に經營せしむるは、策の得たるものなりと云はざるべからず。

桑樹の種類は多種ありと雖、多く野生桑にして、良種の栽培せるものなし、野生桑も頗る大にして高さ數丈に及ぶものあり、其他小なるものは數多繁茂せり十數年以前に在ては樹幹の大なるものの多かりしも、日清の役に續て日露の戰爭を以てし軍隊の燃料に供する爲、伐採せられたるもの少なからずと云ふ。各地家屋の周圍に栽植せるのみにして、畑地を以て桑園となしたるものあるを見ず、蠶は婦女子の玩弄的に飼育するに過ぎざるを以て、桑樹の如きも少數ある兒かれ、繁殖の如き實驗、接木其他種々の方法なりと雖、特に注意せずして天然に任せ、且肥料の如きも之を施すことなし。

蠶の種類は多くは三眠蠶にして、四眠蠶少し、黃繭種、白繭種、形は多くは長楕圓形にして中央の縊れたるもの少しと云ふ、繭形は小にして聲升の粒數は三百五十乃至四百位なりといふ。

蠶種　蠶種は飼育者自ら採種するもの多く、別段他より購入するものあるを聞かず、蠶種の保護貯藏の如きは特に之を行ふことなくして、愛玩的に簞笥の抽出等に入れ置くものあり普蘭店支署管內三家子に於て目擊したるものゝ如きは、古新

懸賞募集

一と口噺

（第八回投稿）

天

◎催眠術　愛知　孤峰子

見『此の蠶は不眠蠶で眠らないよ』

第『そんなら催眠術をかけたらよかろう』

問　答

聞紙に產卵せしめたるものにして、肉眼鑑定上其良種なるを認むる能はず。

飼育法　桑葉の發芽は地方に依り多少の差あり、一般に四月中旬頃なりといふ、此期節に至れば蠶兒自ら發生すれども必ずしも桑葉の發芽と一致せざるもの、如く、發生數日に亘ることあり、是れ蠶種の貯藏保護及催青の方法充分ならず、否全く之等の方法を施すなきに由る、一旦發生したる蠶兒は之を蠶箔（高粱）、米殼の包紙の稈にて編みたる鍋蓋様の空氣の流通を滑らかにし、換氣を行ふ如きは更に注意せざる所なり、桑葉は多少刻みたるものを與へ、掃立後約三十日を經過すれば上簇す、其際は粟稈等を簇の材用として結編せしむと云ふ。

管内に於ける飼育者の數は其幾何あるやは、明らかに知る能はず、然れども一人の飼育量最も多きは一千顆内外、少きは僅に五六百顆位の繭を收獲するものゝ如し、而して生絲は各自繰糸し自家用に供するに過ぎずと。

蚕室　蠶兒を管内に直接害あることなしと雖、被害葉は自然粗硬となり且養分乏しきを以て之れを以て蠶兒を飼育するときは惡影響を來たすは免れ難い。

肥料に就き質問

兵庫縣通常會員　大植信一

會報第百九十二號に、川島勝次郎氏は蠶糞を腐熟せしむるため、肥料槽に入れ、此の場合に過燐酸石灰を加ふれば有効なりと云ふにあり。

答

學藝委員　農學士　川島勝次郎

蠶糞中の窒素は主として尿酸鹽より成り、其腐熟するに從ひ大部分は「アンモニヤ」鹽若くは遊離「アンモニヤ」等となり發散するものなるが、之に約二割の過燐酸石灰を加入するときは、少から其發散を防止することが出來る、其化學的變化は極めて複雑にして簡單なる方程式を以て示し難いけれども一部は燐酸「アンモニヤ」等に變ずるものゝ如くである。

蠶室屋根亞鉛葺に就き質問

鳥取縣通常會員　大栗左馬太郎

私は納屋を蠶室に改造し、亞鉛葺にしやうと思ふよのですが、亞鉛葺は蠶兒の飼育に適せぬでしやうか、屋根裏と天井との間を高くし二階は族のみに使用するとせば如何でせう、又此室は秋蠶飼育には絶對に不可能でしやうか右御教示を願ひ奔。

答

學藝委員　土屋泰

亞鉛葺の屋根は晝間は日射の爲に温度暴昇し、夜間は冷却しやすい、故に秋蠶飼育は不適當である。

二化性蠶種の貯藏箱に就き質問

埼玉縣通常會員　山下敬重

二化性蠶種を百理以上離れて居る處の風穴へ貯藏するに箱の製造法は如何にしたらば宜しいでしやう。又桐は其價不廉であるばかりでなく、良き品種で困りますが、桐の外に代用して貯藏及運搬中蟻支の無き樹がありますでしやうか、又板の厚さは何分位にしたらばよいでしやう右御教示下さい。

答

學藝委員　八田達也

風穴の貯藏箱が別に備へあれば單に送り箱として使用する事が出來る。

三、水種幼蟲の尾端に存する白色蠟質赤狀體は蠶兒に直接害を與へ、肥料槽に入れ、此の場合に過燐酸石灰を加ふれば有効なりと云ふにあり。

問　答

桑の害蟲白澁に就き質問

長野縣通常會員　山崎元

私の地方にて桑に風或は白澁と稱する桑棚害蟲の經過習性、並に驅除法等に就き御説明を承りたい。

答

學藝委員　農學士　明石弘

一、本蟲は半翅目業蚧科 Psyllidae に屬する桑蝨 Anomomorpha Mongolica と稱する昆蟲にして、一年一回の發生をなし成蟲態を以て、雑草等の間に於て越年するものである。

二、驅除法としては幼蟲の群接せる桑葉を集めて焼却するか、石油乳劑二十五倍液を撒布するより、他に良法はなし、併し問者の稱する如く本蟲は陰闇の桑園に好んで繁殖するものであるから、桑園を改良して通風射光を計るが有効なる豫防法と稱

問　答

のであるから、厚さ六分位の杉樅等の板箱で差支ない、併し若し貯藏箱兼用であるなら更に四分板位の内箱を造り、蠶種と蠶種との間隙は少くとも三分位離す樣に変形類で隔離するが肝要である、中箱は桐でなくとも杉か樅等の臭氣なき乾燥した板なれば差支ない。

上簇室の明暗に就き質問

通常會員　絲川爲一郎

池田榮太郎著蠶體生理二六頁第三節第三項には室と明暗との關係に、（中略）偏明尤も悪しく暗黑之に次き明室最も良とすあり。

松永伍作著養蠶術講義一一六頁には若し明き樓光線の平均を得る事が出來るならば暗くする心要なしとあり。

相馬愛藏著蠶種製造論五二頁には暗室を愛するものなる故、暗室にありては直に絲を吐き初むるが明るく爛々なる室内にありては、彼は非常に驚き廻り容易に繭を結ばず、爲めに體力を勞する恐あり又同功繭を作る事暗室よりも二三倍の多きに至るものなり、故に繭取養蠶家にありても上簇室は暗きを宜しとするとあります。

此の如くにて戚れが好結果を得るか譯り兼ねます御教示を願ひます。

池田榮太郎著蠶體生理に第一眠獅子休、第二眠を鷹の休、第三眠と船休、第四眠を庭の休と言ふてあります、如何なる理由にて斯く呼びますか、蠶兒眠中取扱に最も關係を生ずる事と存ぜられますに付御教示を願ひます。

答　愛媛縣農學校教諭　池田榮太郎

蠶兒は適當の發期に達し、適當なる結繭の場所を得さへすれば、室の明暗に關係なく營繭を始むるものである、尤も同一熟期のものを明暗兩所に置くときは、暗は明より稍々早く吐絲を始むるも、明室なるが故に頭々として體力を疲勞するが知きことはない、次に同功繭の多少は室の明暗に大した關係はない。

蠶兒の第一眠を獅子の休みと云ひ、第二眠を鷹の休みと呼ぶは、蓋し外殼色彩の相似たるより稱へたるものにして、船はフルナ（古樂）の意、庭はニハ（用樂）の意であらう。佛說に蠶兒を天竺の或王姫の化身なりとし、姫の存命中或時は獅子吼山に奏でられ、蠶眠の因縁なる形容詞と解してよからう斯く呼ぶとあるは、蠶眠の因縁なる形容詞と解してよからう傍ほ是に關する詳細は拙著蠶體解剖生理論第一卷脱皮論中に說いてあるから參照ありたい。

各國の生絲輸出額　農商務省の調査に係る昨四十年度の世界各國の生絲輸出製蚕高は左の如し。

年度	伊太利	佛蘭西	清國	支那	日本	合計
十四年	一、七五〇	四、八六〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、六八七
十五年	一、七〇〇	四、八〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、六八〇
十六年	一、七五〇	四、三〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、八九九
十七年	一、八〇〇	四、四〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、九〇〇
十八年	一、八一〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
十九年	一、八五〇	四、五〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十年	一、八六〇	四、五〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
二十九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
三十九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇

資料

千九百六年度世界重要産絲國産絲額統計

（承前）（其の十）

「セルビア」「セルビヤ」國に於て蠶種の無料配布及び購買に付、同國政府の特許を得たる「セルビア」蠶絲會は例年の通り千九百六年度に於ける「セルビア」國收繭額を左の通り通知せられた。

年次	收繭量
一八九五	二七、〇二二
一八九六	三一、一六五
一八九七	二六、八、六〇二八

年次	收繭量
一八九八	一、五七一
一八九九	三、五一一五

年次	收繭量
一八九七	一、六〇〇
一八九八	二、五〇〇
一八九九	二、七〇〇
一九〇〇	三、四〇〇
一九〇一	二、七三三
一九〇二	二、八〇〇
一九〇三	四、四〇〇
一九〇四	四、六〇〇
一九〇五	四、五〇〇
一九〇六	四、五〇〇
一九〇七	四、六〇〇
一九〇八	四、六〇〇
一九〇九	四、六〇〇
一九一〇	四、六〇〇
一九一一	四、六〇〇
一九一二	四、六〇〇
一九一三	四、六〇〇
一九一四	四、六〇〇
一九一五	四、六〇〇
一九一六	四、六〇〇
一九一七	四、六〇〇
一九一八	四、六〇〇
一九一九	四、六〇〇
一九二〇	四、六〇〇

年度	伊太利	佛蘭西	清國	支那	日本	合計
四十一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
四十九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
五十九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
六十九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇

年度	伊太利	佛蘭西	清國	支那	日本	合計
七十一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
七十九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
八十九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
九十九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇

年度	伊太利	佛蘭西	清國	支那	日本	合計
一百一年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百二年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百三年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百四年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百五年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百六年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百七年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百八年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百九年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇
一百十年	一、八七〇	四、六〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇

蠶種「オンス」の平均産絲量は、約二十五基である、蠶絲業

千九百六年度世界重要蠶糸業生絲調査統計

が未だ幼稚である、國としては非常なる成功ではないか。

兩年度の成績を比較すると千九百六年度は非常に滿足なる成績である。

千九百六年度に收獲したる新繭三十三萬五千九百二十二基は、約二萬八千基の生絲を產出した、前年度は僅に一萬〇五百基に過ぎなかつた。

羅馬尼亞國女王「エリザベツト」陛下の御奬勵に依り同國の蠶絲業は近年顯著なる進歩を爲した。

千九百五年「ブカレスト」に工女なる協會の設立されたるも亦陛下の御保護に依つたのである、此の協會の目的は自宅で職業する工女を奬勵し、且つ製絲場又は其他生絲を主臺とする總ての工場の設立を計るに在るのだ。

此の外「ブカレスト」に製絲業の進歩に與て大に力あつた一の會社がある。

「ダニユーブ」河畔「ドルジユ」「アルフオブ」「ロマナチ」及「ジヤロミタ」の諸縣が最も蠶絲業に於て發達して居る。

* * *

希臘及クレート

希臘に在「アテーネ」「佛蘭西」商業會議所の通知に依れば、千九百六年度の希臘の收繭量は約八十四萬二千基である、之を前年度の七十六萬基に比すると八萬二千基即ち約一割五分の增加である。

到る處蠶種の孵化は良好であつた、而して第三眠までは蠶兒の發育も到る處良好であつた、然るに不幸にも飼育最終期に臨で最も主要なる產地たる「メセニー」及「ラコニー」地方を中心として、暴風雨の襲來を受けた爲め、大體の成績から云へば良好ではあるが、當初豫期した程の大成功を得るに至らなんだ。

千九百六年度に收繭した八十四萬二千基は約六萬七千五百基の生絲を產出した。

最近五年間希臘から佛蘭西に輸出した生絲及繭の數量を左に示さう。

紀次	生絲	繭（佛蘭西に於て絲となしたる分）	生絲合計
一九〇二	三一、一一〇	四二、七七〇	四二、七七〇
一九〇三	二五、一一五	一三、八七一	三八、九八六
一九〇四	一三、〇〇四	三、七七八	一六、七八二

一九〇五	二六、四九四	一〇、九三九	三七、四三三
一九〇六	二一、〇〇〇	六、九七五	二七、九七六
五ヶ年間平均	二三、三四四	九、四四五	三二、七八九

在「アテーネ」佛國公使の報告に依て希臘現時の蠶絲業に關する狀況を次に述べやう。

昔者希臘の富源の一であつたが、希土戰爭に際し多數の桑樹を伐採され、爾來半世紀の間桑樹の培養は全く衰滅してあつたが近來に至り漸々復故の趨勢を示して來た、余は現に「アギア」地方「ペロペネーズ」地方等で近頃開設せられた多數の桑園を實見したのである。

「カラマタ」は依然產繭地の重鎭である、此の地は製絲業も大に發達して居る、此の地に四ヶ所の製絲場があるが、千九百六年度に於て此の四製絲場は約二萬三千基の生絲を製造した。

個人の小工場は益々增加する傾であるが此等の工場が製造販賣した諸織物の代價は約十一萬法と計上された。

（希臘の項完）

大なる事業は大なる準備を要す

（リオドラス）

框製蠶種用「トタン」小框の勾配に就きて

通常會員　中村淳

「トタン」小枠の直徑一寸四分と一寸三分とにて勾配を附したるは、遷延上及び貯藏上の便によるものなり、何人となれば百個の小枠には僅かに四五寸位の長さに相當重疊し得ればなり。

然るに繰糸するときに一寸三分を上とし、一寸四分を下にすると蛾體はその廣き部分に產卵しつゝあるに、繭の羽は次の狹き部分に於て左右に動き動くときは繭の位置よりも、より狹き「トタン」の尖頭に觸るるを以て外に飛出づるを以て勾配ある「トタン」小枠を用ゆるときは深さ四分は五分よりも、六分は七分よりも、より多く繭の外に飛出づるものなり、何人となれば浸きの程、繭は羽が益勾配の「トタン」小枠の尖頭に觸ること多ければなり。

併しながら七分の深さの枠にて又昔の繭の羽は「トタン」尖頭に觸れざるも、自體の繭の羽は尖頭に觸るるを以て、其大小によりて等差あることに注意せざるべからず。

從來蠶種家の間、或に「トタン」小枠の上部が挾き故に、上に附出でざるものと思ひしに、全く誤解なり、繭の羽は魚の尾鰭の如き動きなきものにて、魚の尾鰭に他物の觸るゝときは反れ飛ぶが如く、繭の羽が「トタン」小枠の尖頭繭のある部分よりは挾きを以て、之れに觸るゝときは羽にて飛上がるなり、決して勾配

穴の中にて下より順次に手足にて上に卸ひ昇るものにあらず。

中村式木板枠製器に木板の穴に「トダメ」枠を嵌むるものなれば、從來の小枠の如く遊返盯設共に「トダメ」枠の外なる鉄に相銜重為するなり、而して其二十八の穴は上下に勾配を附せず、共に直徑一寸四分にて木の厚さ即ち穴の深さは四五分にして、木板の破碎せざる限度となせり、斯の如く穴に勾配なきな只つて繭體の存在する場所も、繭廻の動き鈍く場所も同一の廣さなるより「トダメ」小枠の挽き出頭に觸ることなきなり、穴の深さ浅き繭は飛び出づることなしとす。

又穴の深さものは空繭の波過悪しきな只て、蟻の備生に害あり、且つ繭の産み方悪しきなる見れず、蠶種家に繭の働きを良くし卵の産附を多からしむる爲めに圓扇にてあおぎ、暫然なる小枠内の空氣の流通を良くし、蟻の衛生を助くるに非ずや故に蛇製器の穴の深さは勾配を附せずして、可成淺く繭廻なして充分に穴の上に見つつ、動き働くようなさしむれば、蟻は外に飛出づることなく、且つ衛生上の繭の産附多きものとす。

從年甲の蠶種家四分位穴のものを用ひて蟻の飼上をさることを主張し、乙の蠶種家四分位穴のものを用ひて深きものより飛上らすりしことを實驗により主張し、此両者に就き人々をして大に經試しめつゝあり、然れども我邊の実驗上に於ては一寸三分と一寸四分の勾配の穴は穴の浅きものほど飛上り、深きものほど飛上らざることを知ると同時に、穴の上下共に一寸四分の勾配なきものは穴の浅きものにて繭に飛出ることを知るなり。

扨に一の實例を示さん長野縣の二化蠶地絵本に「ホール」法に穴を明け、勾配なき浅き「トダメ」小枠を飼めたる蛇製器を飼實するものあり、「ホール」なれば非常に刺さと又は巣の浸みたり水分の多き時には曲りくれり、又貯蔵に破れ易き等は缺點なるも價の安きと、第一に蟻の飛出でざるとによりて、之れを採家するもの多く、此二化地方を巡回する檢査員及び小藤方面の蠶種家に、二化蠶であるから飛出ないだらう」化なれば飛出ると主張したるに、一作に十九年度より右の蛇本製の枠製器が、春蠶種の地方にも飼實せられたり、之れを採ひて使用したる蠶種家に始めて在來の厚さものよりも、此浅きものが蟻の飛ではざることを實驗上よりすると共に、原因例明するに至りたり、鞠小蠶種家の酒價調査を覺醒せんが爲め一言するものなり矣。

横濱市場

七月末より強健なる氣配を以て進み來りたる商歌は八月に入るも引續き手堅く保合ひて、信州上一番九百四五十圓の間を昇降し、弗々ながらも相當の手合を見たり、然るに月末に至りて捗々しき入電あらざるにより買人一般に氣乗せず、從て染たる商談を見る能はず、市況至て沈静となりて越月す而して全月に於ける生絲の賣行高は總計手合一萬二千二百八十六個、賣了一萬九千九百八十三個を算するに至れり。

今本年生絲市場の將來を按ずるに、我國本年の春蠶は意外の減作なりしは爭ふべからざる事實にして、加ふるに伊國養蠶の不良を傳へ、今又本邦の各地秋蠶の經過悪しく、著しく産繭額少きを聞く、而して新絲以來横濱への生絲の出廻り高例年の如くならず、從て在荷も僅に一萬五六千個の間にあり、故に絲價は今後假令買氣薄き爲多少弱含みとなるも少しく買人の市場に現はるるに於ては、到底適品の拂底を免かれざるべし、絲價の前途は甚しき奔騰を見ざるまでも今日より下落するが如きことなかるべからんか。

而して客月中に於て最も高價に賣行きたるは群馬縣碓氷社羽子板にして、最も低價なりしは福島縣共同金魚なりとす、今左に本年一月以來の最高價と前年の夫れとを對照すれば左の如し。

生絲最高價月別前年對照表

明治四十一年		明治四十年		價格の差
一月	山梨縣石黒商製絲 一、一一〇〇	山梨縣矢島組金太	一、三一五	二〇五
二月	山梨縣矢島組金太 一、〇四〇〇	山梨縣矢島組金太	一、三〇〇	二六〇
三月	山形縣清盛社丁西郎太 九五〇〇	岐阜縣金巻製絲	一、四〇〇	四五〇
四月	愛知縣日登社細 九一五	埼玉縣羽村館	九六〇	五三五
五月	群馬縣碓氷社羽子板製絲 九四〇	群馬縣碓氷社羽子板製絲	一、四五〇	四九〇
六月	山梨縣甲斐社細新 一、〇〇〇	山梨縣矢島組新	一、四三〇	四三〇
七月	山梨縣長野社細新 一、〇三〇	埼玉縣森澤製絲細	一、四五〇	三一〇
八月	群馬縣碓氷社羽子板 一、〇六〇	埼玉縣森澤製絲細	一、四五〇	三九〇

備考左に本月中の生絲集散種別表を掲げて參考となさん。

明治四十一年八月自一日至三十一日生絲集散日別表

	器械太○ 同同中△ 座繰細× 撚返し＋ 持越	入荷	賣了	地方積荷	繰越
一日	一七、九三八	二〇、一四八	一七、一八四	一、〇〇一	一七、〇〇七
二日	一、九九五	四、三九一	二、一九六	六三	四、一二七
三日	八九五	二、一九二	六〇三	一七	二四六七
四日	二六、七三〇	一九、九八三	一、〇八一	二三、六〇四	

備考

一、此中草位繰は九貫目を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る

三、前月分の繰越と其數一致せざるは廻讃中のものありしに依る

四、繰越以外に廻讃中のものありしに依る

五、買了中未國に輸出せるものは八千八百二十七俵にして歐洲に輸出せるものは二千六百十九俵なりとす

備考左に生絲集散日別表を掲げて參考となさん。

明治四十一年八月自一日至三十一日生絲集散日別表

	入荷	手合	賣了	引渡	輸出	産地方	國名	社名	種別	最低	最高	摘要
一日	七八二	四三五	八〇七半	二七		三八	甲斐	甲南	組○	一〇一一	一〇一一	補充口に弗々商談あり氣配手堅く且つ多
二日					八四七		信濃	小口		九三〇	九三〇	少新規買物も加はり居る姿なりし
三日	二〇五五	一〇七六	五〇五	一九		九二	甲斐	林原	絲○	一〇一一	一〇一一	日曜日
四日	一〇三三	四六二	七七三	三〇		六六	信濃	岩明	社絲○	九七七	九七七	産機の必用口は何分か高直に多數手合出
五日	九六二	五三六	九三半	五八	一〇五三	六六	信濃	江俊平	絲○	九二九	九二九	來し其他は別に變りなかりし
六日	一一一九	三六〇	九五七半	五八		九六	伊豆	尾正	組絲○	一〇〇五	一〇〇五	商談術々手薄なりしも總て異狀なく小壓
七日	九四五	七九	九五六半	一八		六六	甲斐	共六	馬金+	九三〇	九三〇	く保合ふ
八日	七九五半	三五六	八六五		七八〇	一一七	甲斐	島二	組絲○	九三〇	九三〇	新注文見へざれども小口當用誘は小壓
九日						丹波	見瓜	川	社絲×	一四〇	一四〇	相場大人氣高に折合へも小口當用誘は小壓
十日	二一五七半	四六一	九八五	二五		一一七	甲斐	武殖	社絲□	一四〇	一四〇	遠當品薄なると大筋一と切と云ふ工合に
十一日	六二五	五八八	九四四			三五	三重	小田切	絲○	九二〇	九二〇	商談倍強の姿なりし一方相場は前導保合に尚
十二日	六八七	九四	四五四			四五	三重	田切	絲○	九二〇	九二〇	日曜日
十三日	一一四八	一三三	五八四	一		九九	甲斐	上野	馬社+	九二〇	九二〇	一般に人電待にて落付居り見續光口へ少
十四日	八六七	五三三	四八九	四六一		九八五	甲斐	碓氷	社絲○	九二〇	九二〇	しく尚直にて商ひあり
十五日	九六九	六九	七二三	一五	八〇一	二二五	甲斐	社羽子	銀×	九二〇	九二〇	日曜日
十六日						六六	信濃	信州	絲○	九二〇	九二〇	欧洲尚へ信州上一雲九百四十圓にて折合
十七日	一一二九	一一五九	六六七			二二	信濃	大和組	人銀×	九四〇	九四〇	其他折袋し等に手合出來せり

	入荷	手合	賣了	引渡	輸出	産地方	國名	社名	種別	最低	最高	摘要
十八日	五七一	一七五	七二二半	一〇〇		二七	上野	下仁田社	絲○	一〇三三	一〇三三	一般に人電待にて落付居り見續光口へ少
十九日	五四八	八二	一〇一五	一〇七	一四四九	三三	碓氷	社銀	紅銀×	九二五	九二五	しく尚直にて商ひあり
二十日	七八四	四八九	五八七	七二	四〇	九九	駿河	中野	社絲□	九二〇	九二〇	新規注文に入來も大口ならず獲に歌尚の種光
廿一日	六五四	四九七	四八七半	五一	海山	二四	伊賀	東	社絲□	九二〇	九二〇	九八〇〇一と際沈靜にて新規商談皆無の體なりし
廿二日	七五七	五七〇	三三一半	七七	五一〇	一七	三河	築製	絲○	九二〇	九二〇	相場は緩り氣なく弗々出來せしが持ち上き
廿三日						信濃	信濃	過製	絲○	九二〇	九二〇	商談なく人氣靜かなりし
廿四日	一三九二	一三三四	三八九	三四	六五一	七	甲斐	甲南	絲○	九三〇	九三〇	一雪九百五十五圓なりし信州上
廿五日	八一八	一〇五一	四八二	一四		二	甲斐	萬澤	絲○	九三〇	九三〇	來も少買物を出し品によりては五圓
廿六日	一三二六	一七四	一一三六半	一五四半		一八	岩代	島行	社金+	九三〇	九三〇	高の取組あり其他は別に變りなかりし
廿七日	八九五	八八八	一一三六半	三六		三三	甲斐	組	絲○	九三〇	九三〇	林商は小作組合から紙面白かざるなる見解にて弥
廿八日	七七五	三六	一三五三	一〇		二〇	信濃	下諏訪	絲○	九三〇	九三〇	作關係して弥々強硬なる氣味にて五十
廿九日	一一一	一一七	六八五半	一四三半	七九〇	二九	甲斐	白山	絲○	九三〇	九三〇	新注文見へざれども小口當用誘は小壓
三十日							下仁田	社	金字×			相場大人氣高に折合へも小口當用誘は小壓
計	二六、七三二半	一二、二八六	一九、九八三半	一、〇二一半	一二四四六	一、〇八一				九二五	九二五	遠當品薄なると大筋一と切と云ふ工合に
										一〇二〇	一〇二〇	商談倍強の姿なりし一方相場は前導保合に尚
										九二〇	九二〇	日曜日
										一〇二〇	一〇二〇	必用口としては上州に商ひあり其他部座絲に商談なく
										九二五	九二五	丈け口に充て他は一般に沈靜處にて商談なく
												市況一樣接せり

尙左に本年一月以來の生絲集散の狀況を明かならしめん爲月別表を示すべし。

生絲集散前年對照表

年月次	持越	入荷	買了	使用	繰越	輸出	繰越
四十一年一月	四四、二二〇〇	一〇、九七一	九、八五五	九二四	四四、三九三	五、九六二	五、九六二
四十一年二月	四四、三九三	一一、四六二	一一、七一二	三一、五七六	三四、八八〇	六、四七九	五、九一〇、八九一
四十一年三月	三四、八八〇	一〇、〇六〇	一〇、〇四四	二、〇四四	一一、七一二	六、四七〇	六、四七九
四十一年四月	三一、五七六	一一、三一一	一一、六六五	二、〇六五	一一、三一一	七、三六二	七、三六二
四十一年五月	二三、三七一	九、五七四	一三、二八四	二三、三七一	二、二〇〇	六、八一二	六、八一二
四十一年六月	一〇、二〇〇	一〇、八一三	一一、六〇九	一一、三九五	一、二四四	七、一七二	七、一七二
四十一年七月	一一、三九五	一二、九九六	一一、九八二	一一、九四〇	一一、三九五	一〇、五六三	一〇、五六三
四十一年八月	一七、二三九	二六、七三〇	一一、九八八	一一、〇八一	二三、六〇四	一一、四四六	一一、四四六
計		一一、三五四	一一、三五四	一〇、九二四		六三、一四六	六〇、九八二
四十年八月		八四、三九四	八四、三九四	四三、一七五		三五、六八五	九、七七九

里昂市場（七月十八日發）

昨年冬季に欧米に於て發生したる經濟上の恐慌及大戰爭の影響は遂に我が國の生絲市場にも及ぼし、其後生絲物價上及前三ヶ年間欧洲十八ヶ所の生絲檢査所に於る檢査成績に依りて推測さるゝなり、

一九〇五年第三期（三ヶ月四分）五、六六二、一八四五キロ
同　第四期　同　五、六九六、〇〇二四
一九〇六年第一期　同　五、〇三七、六五八四
同　第二期　同　五、六七七、八二八四
同　第三期　同　五、五七七、〇八六キロ
同　第四期　同　六、九二四、三四八四
一九〇七年第一期　同　六、二一七、四七六四
同　第二期　同　七、七四二、一三九四
同　第三期　同　七、一七一、三六四
同　第四期　同　五、九七〇、四〇一キロ
一九〇八年第一期　同　五、二八一、九五一四
同　第二期　同　五、三八一、一四六六四
同　第三期　同　五、二八一、一四六六四
同　第四期　同　六、〇七一、九四四四
一九〇九年第一期　同　五、二八一、九五一四
同　第二期　同　五、三八一、一四六六四

二三、三七一、〇九三四キロ

最も甚不況に陥論間の我生絲に限らず、伊國絲清國絲等皆な始しく不味たりしを免れず、今昨年六月以降の商況を叙ればこの如し。

先づ昨年五月末頃より下向となりたる相場に、六月初めに當り一寸高直を示したるも、何分當機屋の手許乏しく、在荷潤沢なりし際なりしに、間もなく日本絲先づ下向となり、續いて清國絲も欧洲絲夫々安値を場ふるに至り七月中旬亦た少の高下を免れざりしも、乗角相場不引合なりしより生糸動き試みんとするも動かざりしに、横濱市場に強気の模様なりしが、續育は八月に入るも尚形勢見返りの姿に、殊にパッシッヤヌエア州絹業進方に絶縁工場に直接工ありて容易に落着の模様なく、左なきだに不味の商況に少なからず影響を及ぼし九月に入るに市況は依然不定の狀況に在りたり、尤も當業者中には新月來の不況に鑑み、「投機買買を試むる者出たるに加へ、欧洲絲の進額、昨年に比し減少し、殊に近年に於ける生絲需要増加の筋や、自然米國への輸入に減出を來すの形勢なれば、米國市場に對する大部分の供給は勿論、本邦市場に仰ぎざるを得ざる位置に在る事なれば絹織物巻見込の立ち次第にては、市況漸々強調に向ふべしと見做されたる際、十月に入り悲観説に紛れて紐育金融市場にも及びたれば一般商況俄かに沈静となり、各機絲の中に尤恐慌に陥へ得ずして、遂に一番算管理人の監理に帰するもの次第に現はるゝの姿なりければ、相場も紐育に限らず各生産地の市場を通じて一大低落を來せり。當時當業者中に尤も必要なりと云へば、機業家たるもの絶に狂狽し、其製造か制限するは策の得たるものに非ず、寧ろ原料の安直に乗じ之を仕入れ置き、塩から手到來すべき反動に備る機業家たるもの、絶えて大口注文の出づるなく、相場は昨年一月となり十二月となる、本邦市場の外絶えて大口注文の出づるなく、相場は昨年一月となり十二月となる、本邦市場の外絶えて大口注文の出づるなく、相場は昨年一月となり十二月となる。小口買注文は引立つの模様なく、全國機業の中には新月の繰糸を休止せざれたりと稱せり。二月中旬の頃伊國ミラノに於て、生絲市價の低落を防遏せん策協約、シンジケートを組織せんとの噂ありたる筋へ買進み機運弱き為に動き強氣を示し、從て國市場に於ても稍々買氣付たるも、數日ならずして其氣運なりし為實の明驚せると同時に、舊の如く不況の有様に復歸せり、而して續育界の景況依然不振にして先物流行の趨勢定らざる際、昨年以來の困難に加へ、此上の危険を冒すに能はざれば、一方に於ては、一般商況の機運なり、生絲市價の低落と共に、一方に於ては、一般商況の機運なり、生絲市價の低落と共に、一方に於ては、一般商況の機運なり、生絲市價の低落と共に

ちず、我機業の大規模たる事は左記數字に照して之を知る事を得可し。

一、廣中物機織　五五、〇〇〇瓶
一、我中物同上　一〇、〇〇〇瓶
一、經絲兩絲用（スレンドル）　一四、〇〇〇瓶

右は即ち我全米國内の組織たる十六州に於ける製造所製造機圖の要計たるものにして、世界中何れの國（假令に傳國）と雖ども、我國の如く組製品を開内各所の需業者に分配する上に於て說偏ずるものはなかるべし。

予靜に輸出を觀察するものは一般に其狀況の恢復遠からざるを覺ぼず、而して生絲市價にして徒らに高價を呈さざる限りは遠からず、組製品の需要を誘致する事疑を容るべく、而して其結果は即り製品の需要を增進するに止まらず、原料たる生絲の需要をも增大すべし、而して又た生絲低廉なるときは貴其品を消費者の等易に購ひ得べき價にて製出する事を得て、偖々其需要を增進する事を得可し是れ吾人の經驗に徴して知る處なり、目下組織界の比較的振はざるも、其程度は其だ他織物に比し贅澤品たるの程度にあるのみ、之を目下の形勢より見るに組織界の發展は、曾は當分は發したる事なかるべきも、本年秋に至ては次に改善し明年春に迨び遽に大に改善を加ふるに至るべしなり。

曾は生絲消費の範圍強ゐられ、魚釣絲用として其用途時漸に增加せりと云ふ、其理由に組織にて製ずるものは他の材料にて製ずるに比し、遠方迄投げ込む（水中に）事を得るが爲めにして、之に用ふる生絲及び紡績絲なりと云ふ。

（未完）

上海市場

白絲　七月中白絲の輸出高は四千九百三十四俵（八十斤入）にして前月より二千六百六十三俵を增加し昨年同季より七十七俵を增加せり、相場は月初の金騰騰牌に四百六十五兩より漸次沿騰して、月末に至ては四百六十七兩半乃至四百七十兩に上りたれども、昨年同季に比較すれば、曾は七十兩方下賣に在り六月一日以來七月末までの手合高は歐洲に九千八百俵米國に三千俵合計一萬二千八百俵にして昨年同季に比較すれば九百五十俵を減ぜり。

黃絲　七月中黃絲の輸出高は千八百四十四俵（百斤入）にして前月に比較すれば千五百三十九俵昨年同季に比較すれば、千五百三十九俵を增加し、一昨年同期に比較すれば、八百七十六俵を增加せり、相場は月初の汚陽8T一號三百七十二兩半より月末に上り二十二兩半方上騰し昨年同季の相場に比すれば四十五兩方上騰せり、六月一日以來七月末までの手合高は歐洲に二千五百俵にして昨年同季よりも千八百五十俵を增加せり。

器械絲　七月中器械絲の輸出高は歐洲に千二百七俵米國に四百九十八俵合計千七百五俵にして前月より九百三十四俵を增し昨年同季より四百八十二俵を增加せり、相場は月初の七百八十兩半より月末には八百三十兩強に上り、五十兩方上騰を來せりと雖も昨年同季に比較すれば、曾は百三四十兩方安直に示せり。

野蠶絲　七月中の輸出高は二千八百八十五俵にして前月に比較すれば、千二百二十俵昨年同季に比較すれば、二千三百六十五俵を增加せり、相場は漸次沿騰し月初の三百四十五兩強より月末には三百六十七兩半に上り、二十二兩半方騰沿せしも昨年同期に比すれば曾は二十兩方下賣に在り。

在荷　七月末上海に於ける各種蠶絲の在荷數左の如し。

	本年	昨年
白絲	四、〇〇〇俵	二、〇〇〇俵
黃絲	二〇〇	五〇〇
野蠶絲	一、五〇〇	三〇〇

41 7 7 8

時報

會務錄事

總裁殿下台臨

本會は來十月七日長野市に於て臨時總會を開催するに際し、總裁伏見宮殿下の台臨を奉請せしに御嘉納あらせられ、意同日台臨あらせらるゝことゝなれり。

評議員會

九月三日午後四時より本會々議室に於て評議員會を開く、出席者及決議事項左の如し。

會頭男爵　松平　正直　副會頭農學博士　酒匂　常明
男爵　羽田　桂之進　入田　達也
本多岩次郎　伯爵　正親町實正
尾澤琢郎　吉池慶正
辻　暢太郎　角田喜右作
前條　吉左衛門　法學博士桑田熊藏
船越　衛　下田伊左衛門

決議事項

一、定款中改正の件
吉池理事定款中不備の事項あるを以て修正案を來十月七日長野市に於て開會する臨時總會に提出したき旨を說き審議の末訂正可決せり。

二、臨時退加豫算
吉池理事より臨時部（改築費）の退加豫算は永道敷設に要する必要なる費用なる旨說明し直に可決確定せり。

三、日本大博覽會協賛部設置の件
松平會頭より本會は日本大博覽會の開設に對し協賛部を設置するを必要と認め之に關し幹部に於て調査したる事項及日本大博覽會事務局に交渉したる案件等を報告し、而して今回遲なくも該博覽會延期の運命に遭遇したるに就き今後適當の時機に於て更に協議を爲すべしとしては如何と諮られしに滿場異議なく決定せり。

四、通信委員規程の件
吉池理事より從來本會に於ては通信委員を海外に設置したるのみにて內國には之を置かざりしも、本會が蠶絲業の中央機關として全國に於ける蠶絲業の狀況は、蠶種播立の多少より養蠶の豐凶、製絲釜數の增減、金融の狀況等時々刻々最も迅速機敏なる報告を受け、依て以て或は本會が施設の方針を決定し若は適當の活動を爲す等通信機關の設備は一日も忽諸に付すべからざる急要事項なりとの說明あり、一二字句の修正ありて別項記載の如く可決確定せり。

五、學藝委員及通信委員規程改正の件

吉池理事より前項通信委員規程の設定に依り自然の結果として從來の學藝委員及通信委員規程の改正を必要とするを說き、即ち別項の通決定せり。

六、品評會規則改正の件

吉池理事より蠶絲業の改善發達を期する上に於て斯業品評會の開設は其成績最も觀るべきものあり、本會は創設以來開設數八回に及びたるが、各支會に於ては每年各所に開設を見、本年の如き實に十箇所の多きに及べり、之れ其効果の著しきものあるに因るべし、依て本會は此趨勢に鑑み益之が發達を爲さしむるの要あり、然るに從來品評會規則は單に本會にの品評會關する規定にして支會に對するにはの其だ不便なるのみならず統一を欠くの嫌あり、依て同一規程中に網羅し且從來支會品評會の賞狀は其支會長若くは請求に依り本會會頭より、賞品は支會長より授與し來りしが此改正規則は優等賞に限り特に 總裁殿下御名を以て貴重品を授與し常業者を鼓舞奬勵し併せて支會の事業を援助せんとすとの說明あり、其全文は別項記載するものの如し。

七、會報發行規程中改正の件

吉池理事より每年會報代を本會に送付するの煩を厭ひ、一時に出金を爲し修身の送付を希望する會員あるを以て此條項を設けんとの說明あり、別項記載の如く改正を可決せり。

右各議題を議了せるを以て午後八時過散會せり。

通信委員規程

第一條　本會ハ蠶絲業上ノ通信報告ヲナス爲內國又ハ外國ノ蠶絲業ニ關係アル土地ニ名譽通信委員及通信委員ヲ置ク

第二條　名譽通信委員ハ會頭ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ囑託シ通信委員ハ會頭之ヲ囑託ス

第三條　囑託期間ハ名譽通信委員ニ在リテハ之ヲ定メス通信委員ノ外國ニ在ル者ハ其在留中、內國ニ在ル者ハ二ケ年トス但囑託地方ヲ離レタルトキハ其時ヲ以テ解囑セルモノト看做ス

第四條　外國ノ通信方法ハ委員ノ任意トシ內國ノ通信ハ通信要目ニ依ルモノトス

第五條　名譽通信委員及通信委員ニ對シテハ本會發行ノ會報ヲ贈與ス

第六條　通信委員本會ノ囑託ニ依リ出張調査ヲ爲ストキハ本會ハ規定ノ旅費日當ヲ支給シ通信運搬料ヲ要スルトキハ其實費ヲ支拂ス

附　則

第七條　從來囑託セル外國ニ在ル名譽通信委員及通信委員ハ本規程ニ依リ囑託セルモノト看做ス

第八條　會員ニシテ通信要目ニ依リ報告シタルトキハ會報ニ登載シ相當ノ報酬ヲ爲スコトアルヘシ

通信要目

完期報告

一、桑葉發育ノ模樣

二、桑葉ノ價格

前二項ハ桑樹發芽ノ際及其後二回以上報告スルコト

三、蠶種掃立ノ多少

前年ニ比シ掃立ノ增減ヲ掃立後直ニ報告スルコト

四、養蠶ノ經過

掃立後及上蔟後ノ各一回以上報告スルコト

五、收繭ノ多少

上蔟後迅速ニ其見込ヲ報告スルコト

六、金融ノ狀況

繭購入期前ニ於テ機敏ニ報告スルコト

七、繭賣買相場

繭取引開始ノ際一回爾後著シキ變動アル每ニ報告スルコト

八、製絲釜數ノ增減

新絲製造着手前ニ報告スルコト

臨時報告

一、桑園ノ增減

前年ニ比シ桑園ノ增減アリタルトキハ其見積及反別及其增減シタル原因ヲ報告スルコト

二、桑園ノ被害

凍害、雹害、水害、蟲害等アリタルトキハ迅速ニ報告スルコト但シ被害ノ著大ナル場合ハ電信ヲ以テ報告スルコト

三、蠶絲業者ノ奬勵ニ關スル事項

官公私ヲ問ハス蠶絲業ノ奬勵ニ關シ施設アリタルトキハ詳細ニ報告スルコト

四、蠶絲業ニ於ケル公共團體竝營利團體ノ狀況及成蹟

重要物產同業組合法ニ依レル蠶絲業組合、產業組合法ニ依レル養蠶、製種、製絲ノ組合其他蠶絲業團體ノ狀況及成蹟ヲ報告スルコト

五、蠶絲業上ニ障害ナル事項

蠶絲業ノ改善發達ニ關シ障害ヲ與フルモノアルトキハ其事實ヲ報告スルコト

備考

報告スヘキ事項ハ委員在住ノ道府縣ヲ區域トナスコト但シ全區域內ニ涉リテ調査若ハ觀察シ難キトキハ一部分ヲ限リテ報告スルモ妨ナシ此場合ニ於テハ其範圍ヲ記載スヘシ

定期報告第三、四、五、七項ハ春、夏、秋蠶ノ三期ニ於テ報告スルコト

學藝委員規程

第一條　本會ハ蠶絲業ニ關スル調査、質問ノ應答、品評會若ハ共進會ノ審査又ハ講習講話ヲナス爲學藝委員ヲ置ク

第二條　學藝委員ハ會員中學術技藝ニ達シタル者ニ就キ會頭ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

第三條　學藝委員ノ囑託期間ハ三ケ年トス

第四條　學藝委員本會ノ囑託ニ依リ出張ヲ爲ストキハ本會ハ規定ノ旅費日當ヲ支給シ通信運搬料ヲ要シタルトキハ其實

費ヲ支辨ス

附　則

第五條　從來囑託セル學藝委員ハ本規程ニ依リ囑託セルモノト看做ス

品評會規則改正

第一章　總　則

第一條　本會ノ品評會ハ會頭、支會ノ品評會ハ支會長必要ト認ムルトキ之ヲ開設スルモノトス

第二條　品評會場、出品ノ種類及開會ノ期日等ハ其都度之ヲ定ム

第三條　出品人ハ大日本蠶絲會員ニ限ルモノトス

第四條　出品ハ總テ出品人自家ノ製產ニ限ルモノトス

第五條　出品人ハ其出品ニ關スル圖書物品等ヲ參考品トシテ出品スルコトヲ得

第六條　出品ハ主催會ニ於テ丁寧ニ之ヲ保護スト雖モ損害ハ其實ニ任セス

第七條　品評會ニ關スル事務ノ擔任及費用ノ支辨ハ主催會之ニ當ルモノトス

第二章　出　品

第八條　出品ハ品評會ノ費用ヲ補フ爲メ總テ主催會ニ寄附スルモノトス但シ器具機械等ニシテ價格高貴ナルモノハ此限ニ在ラス

第九條　出品ハ出品受附期限マテニ必ス會場ニ送付スヘシ但シ出品受附期限後ニ至リテ到着シタルモノハ審査ヲ加ヘス

第十條　出品運送費ハ總テ出品人ノ自辨トス

第十一條　出品人ハ必ス一種類毎ニ左ノ書式ニ依リ目錄ヲ出スヘシ但シ出品ニ對シ解說書ヲ添附スルコトヲ得

第何回品評會出品目錄

一（物品及名稱）　數　量

右出品致候也

道府縣市郡區町村
大日本蠶絲會何會員
氏　名　印

年　月　日

大日本蠶絲會（何支會）品評會事務所宛

第三章　審　査

第十二條　審査委員長及審査委員ハ學藝委員若ハ蠶絲業ニ熟練ナル者ノ中ニ就テ本會ニ在リテハ會頭ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ囑託シ支會ニ在リテハ支會長之ヲ囑託ス

第十三條　審査委員ハ自己ノ出品ヲ審査スルコトヲ得ス

第十四條　審査委員長ハ審査ニ着手スル前ニ於テ審査內規ヲ作リ審査委員長ノ承認ヲ受クヘシ

第十五條　審査委員ハ出品ヲ審査シ審査表ヲ作リ審査委員長ニ提出スヘシ

第十六條　審査委員長ハ審査表ヲ檢シ其當ヲ得スト認ムルモノアルトキハ再審査ヲ命スルコトヲ得

第十七條　審査委員長ハ審査委員ノ審査シタルモノニ對シ褒賞ノ等級ヲ擬シ審査ノ狀況ヲ具シ本會ニ在リテハ會頭ニ提

出シ支會ニ在リテハ支會長ニ提出スヘシ但シ支會ニ於テ優等ニ擬セラレタルモノアルトキハ支會長ハ之ヲ會頭ニ提出スヘシ

第四章　褒　賞

第十八條　審査ノ成績優等ナルモノヲ出品シタル者ニ與フル褒賞ハ左ノ等級ニ區別ス

本會

優等賞　賞重品　一等賞　金杯
二等賞　銀杯　三等賞　木杯
四等賞　褒狀

支會

優等賞　賞重品　一等賞　銀杯
二等賞　木杯（三組）　三等賞　木杯（一個）
四等賞　褒狀

第十九條　本會品評會ノ褒賞及支會品評會ノ優等賞ハ總裁名支會品評會一等賞以下ハ支會長名ヲ以テ之ヲ授與ス

第二十條　優等賞ハ一種類ニ付一點ニ限ルモノトス

第二十一條　一人ニシテ一種類數點ヲ出品シ二點以上賞格ニ入リタルモノアルトキハ褒賞ハ其最高等ノ分ニ限リ授與スルモノトス

第二十二條　褒賞ヲ授與シタル後出品人ハ其審査ニ不服ヲ唱ヘ再審査ヲ請ヒ又ハ褒賞ヲ返還スルコトヲ得ス

第五章　雜　則

第二十三條　支會ニ於テ品評會ヲ開設セントスルトキハ豫メ品評會場、出品ノ種類、開會ノ期日、褒賞授與式ノ時日等ヲ記シ本會ニ屆出ヘシ

第二十四條　支會ニ於テ土地ノ事情ニ依リ本則ニ據リ難キモノアルトキハ豫メ規程ヲ定メ本會ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條　支會ニ於テ桑園品評會ヲ開設スル場合ニ於テハ其優等賞ニ總裁名ヲ以テ褒賞ヲ授與ス

前項ノ場合ニ於テハ豫メ規程ヲ定メ本會ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本則ハ明治四十二年一月ヨリ之ヲ施行ス

會報發行規定中改正

第四條ノ次ニ第五條ヲ設置ス

第五條　會員ニシテ一時ニ會報代金二十五圓ヲ納付シタル者ニハ終身會報ヲ無代送附ス

從前ノ第五條ヲ第六條、第六條ヲ第七條ト改ム

支會職員の囑託

福島支會副會長は交迭の爲缺員となり居たりしが、今回同支會長の推薦に依り　總裁殿下より左の通御囑託あらせられたり。

福島支會副會長　石　橋　和

宮城、福島、熊本、信濃各支會長の推薦に依り本會々頭より左の通囑託せられたり。

宮城支會委員部長

柴田　坂元蔵之允　黑川　伊藤　近巻

福島支會商議員
宮崎道之助

熊本支會委員部長
天草　後藤章臣

信濃支會委員部副長
南佐久　市川喜三郎　下高井　小林多吉

地方委員長の囑託

今回　總裁殿下より謹に交迭の爲缺員となり居たる奈良地方委員長を左の通御囑託あらせられたり。

奈良地方委員長　青木良雄

學藝委員の囑託

本會定款第二十六條に依り　總裁殿下より左の諸氏に學藝委員を囑託せられたり。（氏名の上に△印あるものは新に囑託せられたるものにして他は重任なり）

農學士　石渡繁胤　今西直次郎
農學士△石川準太郎　石居一郎
農學士　芳賀權四郎　農學士　針塚長太郎
農學士　八田達也　農學士　林驛作
農學士　本多岩次郎　丹羽敬太郎
農學博士　外山象太郎　堀正太郎
農學士　加賀山辰四郎　農學博士　大森順造
農學士　橫井時敬　農學士　川島勝次郎
農學博士　高木三郎　吉池慶正
農學士　辻鳴太郎　農學士　月田藤三郎
農學士△辻保次郎　農學士　土屋泰

農學士　中村雅次郎　農學士　有働良夫
浦部良太郎　農學士　桑田熊藏
△町田猿　町田菊治郎
農學士　明石弘　農學士　松田昌德
農學士△藤本春二　理學博士　佐々木忠次郎
農學博士　澤村眞　農學士　三吉米熊
農學士　紫藤章　農學士　重松達一郎
農學士　須田金之助（いろは順）

特別會員の推擧

左記の諸氏は本會定款第十四條第二號に依り本會々頭より特別會員に推擧せられたり。

農學士　竹田秀雄　同　宮澤錦雄
同　泰直三　同　本多實芳

蠶桑雜觀

臨時總會

北歐の强雄露西亞と豐を凱歌の中に閉ぢてより、春秋早く既に三回、其間着々として戰後の日本なる新時代は建設せられ、官民或農、商、工、文武の各方面に其畫策する所を施し殆ど舊態を胎さざるに努むるに似たり、蠶て我蠶絲業界を見るに、戰後各種の奬勵實施せられ、發達著しき者ありしも、不幸にして客歲米國恐慌の餘波を受けて、製絲家中破產の悲運に遭遇

したるもの多きを見たるより本年の蠶況亦呉越果して其如何なる結果を齊すやを危みたりしに天の利と人の和とよく其中庸を待て幸に豫期せし如き憂なく、却つて當局者の措置宜しきを得て各地に品評會、共進會等の開設せらるゝもの頗る多く、爲に蠶界の意氣沮喪することなく、益發展の實歷を齎さんとするものあるに至りたるは國家經濟の爲欣躍して止まざるところなり本會亦長野支會の懇請に依り、來る十月七日長野一府十縣聯合共進會の長野市に開かるゝを機とし、本會臨時總會を開設し、以て天下の蠶業家を會し、大に斯業の發展に竭さんとす、蓋し長野の地や蠶業の先進地として夙に名を知られ聯合府縣亦多くは蠶業先進の地なれば、繭生絲の出品一として模範たらざるはなく、學んで益せざるは無けん今や眩醫去つて自滅壞邊に冷かなるの秋、蠶絲業家たるもの豈に此際家に慾して閑を偸むべけんや、希くは東西千里を遠しとせず來つて斯業の發展に努めよ。

▲四十年入全額收繭額（農商務者統計課の調査に依れば四十年度に於ける全國收繭額左の如し但數量價格とも繭、玉繭、出殼繭、屑繭を包含し春夏秋三期を通じての總計なり。）

地方別	數量	價額
東京府	八五、五一四石	三、八八七、五六〇圓
京都府	六、一六五七	三、五七五、四九一
大阪府	二、一六〇	一〇五、七二〇
神奈川縣	七七、九八七	三、一六七、八七〇
兵庫縣	六四、二八六	三四四、一四三九
長崎縣	三、六二〇	一四八、九五三
新潟縣	七二、一四〇	三、四九六、〇三六
埼玉縣	二五三、四七三	一、二四〇〇、二四〇
群馬縣	二五三、九一五	一、一三八九、二二〇
千葉縣	八七、九四七	四、一二三、八一五
茨城縣	一二〇、九一四	五、二六六、三六六
栃木縣	四一、一八一	一、七三〇、九八六
三重縣	一〇、一六五	五三一、六五八
奈良縣	八四、五〇四	四四五七、五〇〇
愛知縣	二一〇、七八六	一、一六七三、二三四
靜岡縣	一〇四、六八六	五、五五五、六八九
山梨縣	一三七、三八八	六、九二〇〇、八一
滋賀縣	一七八、九四五	三、六三七、九〇四
岐阜縣	一七三、一七四	八、六三一、一三〇九
長野縣	二七、六八七、四四二	二七、六八七、四四二
宮城縣	八五、四八〇	四、二四三、四一六
福島縣	二四三、二七一	一一、一五四、三四六
岩手縣	四八、三七〇	二、四七九、一三〇
青森縣	五、〇九一	二七三、一〇一
山形縣	一三一、六〇七	六、六八六、七一八
秋田縣	一八、六九九	九三七、六八七
福井縣	三八、五〇八	一、六四五、六三〇
石川縣	三一、四九八	一三七〇、八二一
富山縣	一六、四四八	六七三、三〇五
鳥取縣	三八、二八二	二、〇二八、四九七
島根縣	一、八七〇、八七二	一、一六四、六九六
岡山縣	三三、一三六	四七一、九六七
廣島縣	一九、七〇〇	六二二、四八二
山口縣	一三六六一	八一七、七六六
和歌山縣	二一、九一〇	一、八九六、三〇〇
德島縣	二〇〇八二	二〇二、二二二
香川縣	三、二九七	一、九四〇、八七八
愛媛縣	三四、九五七	

高知縣	三六、〇〇一	鹿島	一、八四〇、〇二九
福岡縣	七、八九八	山口	四〇、六、〇三二
大分縣	一、〇〇七、八六八	和歌山	六、六四、二〇〇八
佐賀縣	四二、六、八八	香川	二五、三二二
熊本縣	九、四〇九	愛媛	三、三一、七、一〇九
宮崎縣	四六、三五一	高知	一、八四一、一八三
鹿兒島縣	二、一、八八〇	大分	七八四、七九七
沖縄縣	二四、一五六	熊本	三、三五、七六〇
北海道	一、二二	宮崎	一、三三〇、二九四
計	八、一七一	鹿兒島	七七二、八三三
	三、四五六、九六七	沖縄	三、六六
		北海道	二二四、二〇六
		計	一六〇、四〇八、七四六

●四十年全國製絲價額　農商務省統計課より の發表せる調査に依れば昨四十年度の製絲價格左の如し、但此價額中には生糸、玉糸、屑糸、屑物を包含せり。

府縣別	價額	府縣別	價額
東京	三、八六二、四七二	京都	三、一二一、五六三
大阪	四四、一一六	神奈川	二、九五七、六一五
兵庫	二、五七一、三三五	長崎	一二九、〇二一
新潟	三、四八五、〇五九	埼玉	九、三七三、〇一〇
群馬	九、七三五、九九二	千葉	一、一二六、二三六
茨城	二四八、一一二二	栃木	一、二七四、八四〇
奈良	二六八、八四四	三重	三、四八、〇五五
愛知	九、九〇七、〇六二	靜岡	四、〇八九、九五八
山梨	三〇四、〇一一	滋賀	二、五三五、三七九
岐阜	七、八九五、九九五	長野	三七、五三五、七七八
宮城	三、五三九、八八五	福島	一四、七九九、四二八
岩手	一、四九七、一四八	青森	四一、八四〇
山形	一、四九九、三〇一	秋田	九七、八六三
福井	二、一六、七〇六	石川	六三三、七〇二
富山	二、五三四、〇一八	鳥取	一、七四〇、一二四
島根	一、六五六、五八七	岡山	一、四一八、四三四

▲關東蠶業大會　同會は來十月八九の兩日埼玉縣川越町酒蔵跡の大廣間に於て開催せらるゝ由なるが、當日は農商務外務の兩大臣兩省局長其他知名の士多數出席せられ有益なる講話あるべしと云ふ。

▲伊國蠶業保護案撤廢　今春伊太利に於ける蠶絲業は時下不況に對し政府援助の設ありて、之を永久に活用せんとする希望を以て、議長として國務大臣ルザッチ、を議長として國家と蠶絲業關係に向け二十年間百萬リラ宛の資金を給し、蠶絲業者は一人に付き一萬リラ宛を出すことなる決議せしが、此報一度本邦に傳はりしより、我蠶絲業者は大に感激しつゝありしも昨今信ずべき筋の内報によれば、同決議は伊國政府の容る、所とならず、從て當業者の感激も立消の機樣なりと云ふ。

▲長野縣主催共進會　九月二十日より長野市に於て開催せらるべき一府十縣聯合共進會は三百坪の大會場新に其設工なる仮建物縣よりは出品柔員夫々出張して之が陳列を爲しつゝあることなるが同縣は全國第一等の蠶絲業地なるを以て同共進會に蠶業館を設置し信濃支部蠶絲館と座味と賞益とを兼ねる機會本等大陳列して世界に卓絶せる本邦蠶業の特長を示し尚横濱生絲檢査所より出張して蠶絲檢査上に關する實況を觀覽せしむる計畫ありと云ふ。

▲東西蠶業講習所試驗問題　東西蠶業講習所にては去八月十二日より十四日迄、同所及各府縣廳内に於て入學試驗を行はれたるが、其試驗問題左の如し。

英語

譯解

1. The earlier a student begins this basis is learned, the better it will be for his peace of mind and his success in life.
2. I diary or diseases are habits, such as easily acquired as the other.
3. The bride of doing a kind deed every time he had a chance to do it, wasonly formed by him.
4. (a) To and fro.
   (b) By and by.
   (c) He gave up his plans.

文法

1. Make a simples sentence containing a verb in the Passive Voice.
2. What is an adverbial phrase? Gibe an example.
3. Explain the future perfect tense. Give an example.
4. Correct the errors:
   He has arrived Hakodate at 4-oth of last month.

下ノ文ヲ英譯セヨ

一昨日私ガ將ニ停車場ヲ去ラントシマシタト其二三日前名古屋ヲ逢ヒマシタ五人ノ文部人ニ出逢ヒマシタ

物學

一、物體ヲ垂直ニ投ゲ上ゲタルトキ拾六秒ノ後原位ニ落下シタリト云フ其物體ノ捷シタル高サヲ問フ、但シ空氣ノ抵抗ノ影響ハ考ヘモノト假定ス

二、紙駄七百六十一キログラムトセヨ、但シ一キログラムハ何程ナル意味カ又此紙駄ハ一平方センチメートルニ付幾何グラムニナルカ、但水銀ノ比重カ一三、六トス

動物學

一、變態トハ何ノ事ニ例ヲ擧ゲテ說明セヨ

二、左ノ動物ヲ分類セヨ

蚊　アリ　牧牛虫　キツネノエボシ　ムカデ　ナメクジ　ヒドラ　ボカイ　ウニ　サンショウウオ　ヤツメウナギ　フロウガ　ヒトデ　シラミ　フグ　ミジンコ　オウムガイ　紙虫　ホヤ　サソリ

化學

一、蟻酸ノ組ヲ說明セヨ

二、食鹽ヨリ鹽化水素ヲ製ス ル方程式ヲ作レ、又食鹽一〇〇グラムヲ使用スルトキハ幾許グラムノ鹽化水素ヲ生ズ可キヤ

但シ原子量　水素ハ一、〇〇八　ナトリウムハ二三、〇五　鹽素ハ三五、五

作文

成効ヲ論ス

地理

一、左ノ海峡ノ名稱如何

瀬戸内　海峡ト比津賀縣島トノ間

對馬島ト韓國トノ間

樺太島ト露領沿海州トノ間

英佛二國ノ國智風俗其他異ナル點ヲ簡單ニ表示スヘシ

數學

一、年利四歩三厘トスルトキハ元金六百七十五圓十三錢二厘ニ對シ三年五ヶ月七日間ノ利息何程トナルヤ、但シ厘以下三位迄精算スヘシ

二、$\sqrt{\frac{4113}{5625}}=\sqrt{\frac{2824}{3861}}=\sqrt{\frac{3375}{54525}}$ ノ値ヲ求ム

以上算術

三、次ノ方程式ヲ解ク

$x_1=\frac{x_2+x_3}{2}$　$x_2=\frac{x_3+x_1}{2}$　$x_3=\frac{x_1+x_2}{2}$

四、或人其ノ親戚スル所ノ家倉アリ五月中ニ得タル卵ハ四月中ニ得タル卵ヨリ百個多ク五月中ノ卵ノ數ヲ毎月平均スレハ四月中ノ卵ノ數ニ等シク三月ノ多カリシトニシテ五月中ニ得タル卵數幾何

以上代數

五、三角ノ平行輪ガ第四ノ直線ト交レハ四ツノ直線ハ同一ノ平面上ニ在リ

以上幾何

植物學

一、蚕質ノ種類ヲ問フ
二、日光ト植物ノ同化作用トノ關係ヲ問フ

算術

一、次ノ等ノヲ最簡分數ニ直セ

$$\frac{(3+\frac{3}{4}-\frac{1}{2})\times\frac{63}{16}}{16\frac{1}{3}\div(\frac{3}{4}+\frac{1}{3})}\times\frac{5}{6}$$

二、內徑壹尺貳寸高サ六拾尺厚サ四分ノ壹吋ノ煙突ノ重量ヲ問フ、但シ鐵材ノ壹立方尺ノ目方ハ五十八貫目壹吋ハ〇、八三八寸トス

三、桑園ヲ作ルニ壹坪ニ付桑苗五株宛ヲ植ユルトキハ千八百五十株ヲ要可シ若シ六株宛植ユルカノ五百七十株ノ不足ヲ生ズベシト云フ桑苗ノ總數及桑園ノ坪數ハ如何

四、或人金壹百圓ヲ某銀行ニ預ケ年利六分ニテ半年毎ニ利金ヲ元金ニ繰リ込ムトキハ何年ニ至テ利金トシテ七百五圓受取ル可キカ

代數及幾何

一、次ノ方程式ヲ解ケ

$$\frac{x+3}{2}-\frac{2x+1}{3}=\frac{1}{6}$$

二、列車ヲ引カザルトキハ毎時間貳拾四哩ヲ走リ四車ヲ引クトキハ毎時間貳拾哩ヲ走ル機關車ノ此機關車ニ幾車迄引キ得可キカ、但シ列車ヲ引クトキ速度ノ減少ハ車數ノ平方根ニ正比例スト云フ

三、真ヘラレタル一點ヲ過キル球並ノ中點ノ軌跡ヲ求ム

四、與ヘラレタル正六邊形ト等積ナル正三角形ヲ作レ

以上幾何

本科女生入學試驗問題

算術

一、絹五尺ト綿三尺ト其ノ價相等シク而シテ絹一尺ノ價ハ綿一尺ノ値ヨリ十二錢安シト云フ各一尺ノ價幾何

二、工女アリ毎日十時間宛働クヲ十二日間ニ七斗八升ノ繭ヲ繰糸シタリト云フ此ノ割合ニテ毎日十二時間宛働ク二十五日間ニハ幾何ノ繭ヲ繰糸スヿ可キヤ

理科

一、炭火ヲ起スニ吹子ヲ用フル理由如何

二、水銀寒暖計ノ種類ヲ挙ゲテ之ヲ問セヨ

作文

夏ノ朝

製絲法

一、春蠶繭ト夏秋蠶繭トハ之ヲ繰絲スルニ如何ナル差異アリヤ

二、製繭ヲ繰絲スルニハ如何ナル注意ヲ要スヿ可キヤ

三、產繭法ヲ說キタル繭ヲ繰絲スルニハ繰湯ノ溫度ハ如何ニ加減ス可キヤ

別科入學試驗問題

作文

草花ヲ題ル文

製絲法

一、繭ノ遺蛻ナル者加減ハ如何ニシテ之ヲ知ル可キヤ

二、生繭一升百匁ノモノヲ水乾繭ニスルトキハ何匁ニナルヤ

三、春蠶繭ト夏秋蠶繭ハ何レカ絲ヲ易キヤ又絲量ハ何レカ多キヤ

三、產繭法ヲ說キタル繭ヲ繰絲スルニハ繰湯ノ溫度ハ如何ニ加減ス可キヤ

別科入學試驗問題

作文

▲痛惜すべき寫眞界の二大訃音　初秋の突、密雲凝つて動かず、時に雨降らんとして突如雷響すべき世界の二大訃音を聞しり、二大訃音とは何ぞ曰く、佛國テンデチエンヌ寫絲檢査所長及伊國ベルガモ寫絲檢査所長の二名士の長逝せられたることなり。去る六月末日テンデチエンヌ寫絲檢査所長より我蚕絲檢査所長への通知によれば、惟て病氣中なりし右所長フレデリック、ピアラー氏は本年六月廿八日巴黎に逝去致なき旨ゼイ、洪焉として黃泉の客となられたり。抑も吾人の能く知る如くヨーロッパ經絲用として我日本蚕絲の消費高は實に影響を加へられたり。而して故ピアラー所長は多年同所に於て鋭意熱心寫眞力ぜられる人にして幼年里昂蚕絲檢査所長と相識り檢査一定の方針を協議されたる由及年僅かに四十四歲迄に所信費、フレデリック、ピアラー氏の悲みを說りて未だ疲痕の渴かざるに復た伊國ベルガモ蚕絲檢査所長の訃音に接するの不幸を蒙むれり、客月紫

藤生絲檢査所長の許に通じたる處によれはベルガモ蚕絲檢査所長リイノ、ベガノ氏は六月廿四所に勢容一變る新塗の酒に意力ぜられたりしが惜しむべし、遂に消魔の思ずるところとなり七月の朝病氣檢査はずして、七月の後な迄ふに至れり、今や草木黃落して百物蟲の秋に入ればとしなきだに悲氣に臨ちるときに、其名を失ひたるは實に蚕界の一大悲事なりといはざるべからず、謹て弔す。

▲生絲檢査所月報　八月中に於ける横濱生絲檢査所の檢査成績左の如し。

檢査件數

	原量	品位	減	計
本年月月	四、二一一	一、一〇七	一	九、一〇七
前年月月	四、五七三	四、八九四	一	一、三八二
昨年當月	六、七七六	六、八〇九	一	一、二四四六
本年月月	二四、四五五	五、六七〇	一	二、〇五七七
昨年當月迄計	二、二八、三三三	二、〇六、三	八	一、二、五七七

正量檢査

| | 檢査數 | 總量 | 總原量 | 總原量 | 總原

嫁も名も呼びよくなつた蠶時　静岡　萬作

地

天

短夜も絲の話で長くなり　埼玉　一崎草

選者吟

其の後で種屋と乾物法螺を吹き

◎

絲繰り上手絲の絲も引き出し

懸賞募集　俚謠

（第八回拔萬）

高橋鬼川選

五彩

蠶が安いと聞いてか娘　三河　古舟

晴衣はいらぬと目に涙

地

とけばいくらも寶が出ると　東京　連坊

堅く結んだ謎の繭

天

夜機辛さに絲とめ聞けば　敦賀　咲女

蟲さへ鑑賞をさせと鳴く

選者吟

人

蜻蛉釣る中に賢愚の知られけり　駿河　其人

地

見表や花火の我に降かゝる　薩摩　小竹女

天

桃の實の大きくもなし當り年　武藏　秋峰

追加

誰も見よと晉して開く花火哉　選者　翁

懸賞募集　狂句

金坊子選（第八回拔萬）

蠶が安いと聞いてか娘の皺嚊の皺ほど惡くなし　愛知　おと

願なき身は浮名もまへよ
末は煮らるゝ蒲ちやもの

◎秋蠶外れる金には困る
つまらなくなる寒くなる

懸賞募集

一と口噺

秀逸（第八回拔萃）

◎鹿玉　嬬島　白峰

甲「国風、地用魚五郎は命国器科、大学に解剖して鯛玉見られるさうだ」乙「ヘヱ、駄目だよ、死刑の宣告なら受けた唖鯛が潰れて無くなつて居るもの」

◎鹿撫人　埼玉　鶴月

甲「貴、来年は甲、蠶と秋蠶と何方が早く出来るだらう」乙「馬鹿な云ひ給へ、来年の事が分るもの」

◎電氣燈　伊勢　秋月

成人田舎の小供に向ひ「お前らの村には未だ電氣燈があるまい」小供四五人あります」

◎薬子屋の娘　武蔵　神田

甲「薬子屋の娘は砂糖が好きだちうは」乙「ナニ、甲」「アて、薬屋の娘は此頃梅干が好きになつたから」

◎唖　羽前　我流

甲「ヘイ君、駱の野郎は矢張極る奴だれ」乙「どうして」甲「貴方の前で屁をひつて黙つて居るる」

◎君の商賣　伊勢　光蠶

甲「貴の商賣、なに、なんて、見ようか、大低匂で知れるから」乙「ヘエ、唄いて見給へ、悪の匂はせんだらう」

▲選者　花野、月、山雀、松蔵、新酒、

▲課題　俳句（原稿〆切毎月三十日　郵来投書）

▲懸賞　天（一人）会報一ヶ年分◎地（一人）会報半ヶ年分◎人（一人）会報三ヶ月分

▲規則　一題一句つゝ五句限り。○用紙　縦書に限る。○題宜上東京新聞紙上東一三郎氏の題を用ひ、○投稿者に限る。○原稿は本会の会員若くは会員外と雖も紹介者の無き者は会員と認めず。○投稿者は住所氏名を明記せらるべし。之になき者は無効。

狂句（川柳）（原稿〆切毎月三十日限り）

▲選者　高橋鬼川先生

▲課題　蠶糞業に関係あるものならば何にてもよし

▲懸賞　天（一人）会報一ヶ年分◎地（一人）会報半ヶ年分◎人（一人）会報三ヶ月分

謎（都々逸）（原稿〆切毎月三十日限り）

▲選者　高橋鬼川先生

▲課題　蠶糞業に関するものの限りにて女工などに唄はしめても差支なきもの（但し卑猥なるものは没書とす）

▲懸賞　天（一人）会報一ヶ年分◎地（一人）会報半ヶ年分◎人（一人）会報三ヶ月分

一と口噺（原稿〆切毎月三十日限り）

▲選者　高橋鬼川先生

▲課題　何にてもよし（但し卑猥なるものは没書とす）

▲懸賞　天（一人）会報一ヶ年分◎（一人）会報半ヶ年分◎人（一人）会報三ヶ月分

注意

◎初の目的的　山口　蠶守

父「初のお頭さんくなつたら何になる子坊」「海軍さんに志願して軍艦に乗るよ」父「軍艦に乗ると水雷にやられるよ」子「されては水雷に乗る」

讀者文藝懸賞募集

俳句（原稿〆切毎月三十日　郵来投書）

▲選者　花野、月、山雀、松蔵、新酒、

▲課題　俳句（原稿〆切毎月三十日　郵来投書）

▲懸賞　天（一人）会報一ヶ年分◎地（一人）会報半ヶ年分◎人（一人）会報三ヶ月分

蠶海涓滴

△東宮殿下　東北に行啓あらせられ二本松で御休憩の序なり其て雖松館に成せる明治六年の創設にして民間巻国製絲の嚆矢たる同所の面目天晴上やある。

△信州南安　盛の二化百二化及三化性一化の結年すべき蠶種蛹出期より發生既の間冷氣の為に何れも遅性して不結年性と鬼大国郡の蠶種家多しとは訊ふ。

△向十年間　久期し間二萬町歩産額二十萬石に達せしめんと蠶計畫大に努力る宮城県本年度蚕蠶の産繭高四百萬圓以上の見込りと為長谷の進歩。

△織物消費　税法施行細則による海外輸入織物の修入出手続の件は相織物賞品に一大害を與る為なりとて横浜内外商反対運動を為す是如何にも尤も。

△蠶糞總督　府議に於ける森林あり学び桐育せしむる計畫なりと其成功を祈る切なり。

△過般發布　肥料取締規則の改正は時宜に適したるなるも輸行規則中蚕糞改者に行政罰の規定を缺たるものあり、是内規則は一ヶ月。

△明四十三年　年縁興市に開催せらるべき九州沖縄八県聯合共進會は蠶絲館の特設な寄原本事に製造ぜりと聞ふ帝国富源の重要輸出品ぜ之れある之を要す。

△来國博業　界に出業せらる、大筋蠶繭蠶絲新絲出来始めて好調を示すと雖ども欧洲絲及折返絲の頗る不振なるは矛も何等の原因に由るか。

△清國生絲　銀相場低落の為に到安の値段を以て遂に海外に輸出せる北影響なりと聞ふ清国は本邦蠶絲業の一大勢敵シタカリ蠶ちぬと喝破の悔あり。

△大浦農相　同氏が蠶業奨励に関する所見を述べて曰ふ蠶業は共進會等の施設全く規矩を逸して奇怪千万の蠶の飼育方法を採用し損悲たるなきか。

△國民側望　待ちに待ちたる四十五年の大博覧會はシカ五十年後結期さる建産業奨は之れ焦眉の急なるに失れ此事あらんとは嗚呼止んぬる敬國運の登展。

△横浜市相　生町小学校の裏に女工げ子三才三年以来生絲検査所に奉職経始一日の如く精勤年間結婚に際して蠶糞を受く其心掛や感る眞に是れ模範工女也。

新刊紹介

日本養蠶農作全書　石田孫太郎著

聖徳太子が蠶を養ふには慈母の赤子に於ける如くせよ云々、と云ひたのは吾人養蠶家が常に十数年前の格言である。著者は蠶数を増加し繭を生産するにたゆまずして飼育せんとする同所の面目天晴上やある。

吾人の観察は、蛹の二化百二化及三化性一化の結年すべき蠶種蛹出期より發生する所、本書は其先鞭と認むべきもの、殊の尽力の一方に於て蠶の遺産と物の生産を兼ねしめ、之が為に蠶

寄贈書目

月報
農業之日本
農商務省
農業之世界
農業教育
日本農業雑誌
新民
工業化學雑誌
學士會月報
大日本獨立農業雑誌
大日本私立衛生會
農事雑報
農事雑報社
文會
北海之農業
大農園
京都府農會報
勝田農會報
農業新報
岐阜縣農會報
島根縣農會報
園書月報
北海道農會報
中央農事報
東京農事會報
動物學雑誌
染織時報
何鹿農業月報
滋賀縣農會報
兵庫縣農業會報
生産月報
中外商業新報
横濱貿易月報
第一ノ一—二號
第七—八號
自三六—八號
第三—四號
第三—四號
第三—四號
第三—四號
第三—四號
第三—四號
第四ノ一—四ノ六號
第四ノ一—四ノ八號
第四ノ一—四ノ八號
第四ノ一—四ノ八

AVI.

1°. Le bulletin de l'Associations ricicole du Japon est l'organe des membres de cette societé qui compte actuellement plus de 30.200 membres.

2°. Cette Association a pour but de développer toutes les industries de la soie en publiant un rapport mensuel, dans lequel il sera mentionné tous les faits et études sur la soie émanant de savants et intéressés.

3°. Dans ce rapport sera inscrit dans les langues européennes le mouvement mensuel de la Condition des soies de Yokohama, lequel sera distribué aux intéressés étrangers.

4°. L'Association recueillera et publiera les essais et études faits par les interessés étrangers en matière des soies.

La Direction de l'Association Séricicole du Japon.

NOTICE.

1) The report of the sericultural Association of Japan are intended to serve the interest of the members of the association, whose number is over 30.200

2) This asociation has for its objec the development of all silk industries by publishing a monthly report containing the facts and studies on silk by specialists and persons interested in silk.

3) In this report the monthly statement of the Yokohama Silk Conditioning House will be published in a European language for distribution among foreigners interested in silk.

4) The association will collect and publish articles and studies foreigner of topics concerning silk.

The Direction of the Sericultura Association of Japan.

▲別府良時氏　本會廣島高等蚕業學會職員兼任ニシテ熊毛郡長ニシテ熊毛郡長ニシテ同氏ハ今回廣島縣ニ轉任セラレタリ

▲大窪七之丞氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲山田登代太郎氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲石川七郎氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲尾形鱒壽氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲勝俣元長氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲伊奈金雄氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲池田榮太郎氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲宗村徹四郎氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲今村算橘氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲武田豐藏氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲澤原貞吉氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲土居伊太郎氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

▲外山鶴太郎氏　本會ノ廣島高等蚕業學會ニ轉任セラレタリ

大日本蠶絲會報廣告料

特等		並等	
一頁	一圓	半頁	一圓
一頁乃至二頁ニ付	十五圓	一頁乃至二頁ニ付	八圓五十錢
三頁乃至六頁ニ付	十二圓	三頁乃至六頁ニ付	七圓
七頁以上十頁ニ付	七圓	七頁以上十頁ニ付	五圓
四分ノ一頁	四圓	四分ノ一頁	三圓
半頁	三圓	半頁	二圓
一頁	五圓	一頁	三圓五十錢
半頁	三圓五十錢	半頁	二圓
四分ノ一頁以下	一圓	四分ノ一頁以下	一圓

●會員ハ右料金ノ二割引トス●特等ハ四分ノ一頁未滿ハ一行二十七字詰七十二行トス

●本報定價　一冊金拾五錢　一ヶ年分前金壹圓七拾錢

●會員ハ右料金ノ二割引トス●特等ハ四分ノ一頁未滿ハ一行二十七字詰七十二行トス

明治四十一年九月二十日印刷發行

禁轉載

編輯兼發行人　東京市神田區錦町三丁目十八番地　小池市松

印刷人　東京市神田區柴土代町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區錦土代町二丁目一番地　三秀舍活版所

發行所　東京市神田區錦町三丁目十八番地　大日本蠶絲會（電話本局一四七三番）

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK.

Jours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filatures.	Prix. Prices.
	Soie. Silk.					Maximum du prix. Highest prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*		*Yen*
1	489	454	21	—	Kōnansha.	1.010
2	—	—	—	—		—
3	1155	284	51	847	Kitaharaseishi.	1.010
4	581	525	—	—	Hiraiwaseishi.	77½
5	541	501	37	1.053	Yajimagumi.	1.050
6	629	538	54	—	Masakiseishi.	1.030
7	532	543	658	—	Hakuhōsha.	1.040
8	447	487	41	780	Yūkōsha.	1.010
9	—	—	—	—	——	1.000
10	1.212	554	34	—	Kōnansha.	—
11	352	255	20	—	Shinyōsha.	1.035
12	386	329	22	—	Usuisha.	1.030
13	646	365	12	—	Kōseisha.	1.060
14	488	271	16	2.226	Kōshiseishi.	1.060
15	545	407	21	—	Maruniseishi.	1.000
16	—	—	—	—	——	—
17	635	375	12	—	Usuisha.	1.000
18	321	406	15	—	Shimonitasha.	1.020
19	308	571	19	1.449	Yajimagumi.	1.050
20	441	330	23	—	Sunyōsha.	980
21	368	269	14	—	Tōkaisha.	1.020
22	436	186	10	510	Tandzukiseishi.	1.015
23	—	—	—	—	——	—
24	783	219	4	651	Mansawaseishi.	95
25	460	271	12	—	Yajiomagumi.	1.045
26	746	871	10	—	——	—
27	503	649	13	—	Sutoseishi.	1.000
28	436	761	11	—	Tuyamaseishi.	1.010
29	636	385	16	790	Hakuhōsha.	1.035
30	—	—	—	1.686	Nittōsha.	—
31	1.015	512	15	653	Fusōsha.	1.030
Total	1.504	1.124	608	11.446	——	—

1 yen want environ fr. 2.50. 1 Pical = 60 kilg environ.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES

(August 1908.)

		Report.	Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Export.	Renvoyé. Sent back	A reporter. Brought forward.
		Picul.	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*
Filature.	Filature.	846	11.331	9.666	—	5.631	9.566	
Zaguri.	Reroul.	112	2.470	1.235	—	35	2.321	
Kakeiha.	Orihayashi.	553	1.233	339	—	10	1.385	
Autres.	Other.	—	2	—	—	—	2	
Total.		10.030	15.035	11.240	1.146	608	13.277	
1907.		7.376	14.492	13.453	7.355	239	6.844	

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Notre marché, qui marchait avec la tenue la plus satisfaisante depuis la fin de Juillet, a continué au mois d'Août à faire preuve d'une fermeté excellente. Shinshu extra No 1 s'est vendu à des prix de Yen 940 à 950, et les affaires, quoique morcelées, ont été assez enregistrées. Mais, par suite de la rareté des demandes nouvelles à la fin du mois, une grande accalmie se fait sentir sous la forme d'une très grande réserve de la part des acheteurs et du morcellement des affaires qui en résulte. Le nombre total des balles traitées pendant ce mois a été de 12,286 et celui des balles livrées de 19,985.

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement de la soie durant le mois d'Aout.

THE RAWSILK MARKET OF YOKOHAMA.

We epitomize below the condition of the rawsilk market of Yokohama in the month of August.

The satisfactory condition of the market since the close of July still continued to reign in the month under review. Extra No. 1 of *Shinshu* was quoted at from Y. 940 to Y 950; and a good deal of transactions was conducted. Coming to the end of the month, however, as the result of non-arrival of orders from abroad, the buyers generally hesitated to assume active attitude. So that the transactions showed no sign of briskness, and the market again plunged into a dull state. Indeed, the month closed without seeing any improvement of this state. The transactions and actual sales of rawsilk for the period are returned as follows: 12,286 bales for the former, and 19,985 bales for the latter.

The following table shows the movements of rawsilk during the period.